

第4回三春町文化財保存活用地域計画策定協議会次第

日時 令和7年3月19日(水)

13:30～15:30

場所 三春交流館「まほら」小ホール

1. 開 会

2. 教育長あいさつ

3. 議 事

(1) 令和6年度の事業報告について

(2) 令和7年度の予定について

(3) 地域計画の内容について

(4) その他

4. 閉 会

三春町文化財保存活用地域計画策定 令和6年度の事業報告について

1. 策定協議会の立ち上げ・開催

(1) 令和5年度:1回実施(令和6年3月14日)

- ・各地区まちづくり協会をはじめとした各団体や学識経験者からなる三春町文化財保存活用地域計画策定協議会を設置。会長・副会長の選出、地域計画の策定ならびのその進め方について協議。

(2) 令和6年度:3回実施

- ・第2回協議会(令和6年6月27日)
令和6年度の予定について、計画概要・目次案について、各種調査方針について協議。
- ・第3回協議会(令和6年8月28日※書面開催)
地域計画アンケート・ワークショップについて、「三春町の歴史文化の特徴」について協議。
- ・第4回協議会(令和7年3月19日開催)
令和6年度実施の各種調査等の報告、「三春町の歴史文化の特徴」等について協議。

2. 各種説明会の開催

(1) 各地区説明会(令和6年7月～8月)

町内7地区で、それぞれの住民(主に区長)を対象に開催。地域計画の制度や各地区の文化財について説明し、意見交換を行うとともに、主に地区で保有する未指定文化財に関するアンケートを配付。

(2) 各地区ワークショップ(令和7年1月～3月)資料1-2

7地区の住民を対象に、アンケート結果等の紹介を行い、各地区の未指定文化財(「地域の宝物」)にどんなものがあるか、また文化財を保護する際に必要なこと、どんな風に活用したいか等、意見交換を行った。

現在7地区中6地区実施済、抄録は資料1-2のとおり

(3) 文化財保存活用地域計画フォーラム

- ・第1回(令和6年9月21日)
テーマ:「『三春の宝物』・文化財ってなんだろう?」
資料館職員の基調講演、参加者との意見交換
- ・第2回(令和6年12月14日)
テーマ:「古文書からみる三春」
小松賢司文化財保護審議会委員の基調講演、参加者との意見交換
- ・第3回(令和7年2月11日)
テーマ:「三春の歴史的建物」
佐久間保一文化財保護審議会委員、長田城治地域計画策定協議会委員の基調講演、参加者との意見交換

3. 各種調査

(1) アンケート調査 資料1-3

町民の意向等を調査するため、下記4種のアンケートを実施。

- ①町民アンケート（令和6年10月1日～31日）：文化財に対する町民の意識等について調査。
調査対象：三春町町民（中学生以外の町民）全戸配布
- ②中学生アンケート（令和6年10月1日～31日）：中学生の文化財に対する意識等の調査。
調査対象：三春町内の中学校に通う生徒
- ③所有者アンケート（令和6年10月1日～11月19日）：指定等文化財の所有・管理の状況等の調査。
調査対象：社寺、団体及び個人等の文化財の所有者・管理者
- ④保存会アンケート（令和6年10月1日～11月19日）：無形民俗文化財を継承している保存会の活動状況等の調査。
調査対象：無形文化財（郷土芸能等）の保持者・保存会等

4. 庁内検討会

三春町庁内関係部署で組織する庁内検討会を実施し、事業の説明・意見聴取を実施。

・庁内関係部署：総務課、財務課、企画政策課、産業課、建設課、教育課、生涯学習課

- 令和5年度：1回実施（令和5年9月12日）
・関係部署の課長を対象に、地域計画策定について、制度の説明、協議会の立ち上げについて、今後のスケジュール等について説明し、今後の継続的な協力を依頼した。
- 令和6年度：1回実施予定（令和7年2月～3月）

5. 文化財保護審議会への意見聴取

定例の文化財保護審議会にて随時地域計画策定の進捗状況の報告および意見聴取を実施。

- 令和5年度：2回実施（令和5年6月13日、12月22日）
 - 令和6年度：2回実施（令和6年6月13日、11月26日）
- また、審議会の中から策定協議会の委員として3名参加いただいている。

6. 素案作成

上位・関連計画等の整理、既往文化財調査資料の整理、文化財リスト作成を実施中。

7. 文化庁協議

- 令和5年度：1回実施（令和5年5月30日）
地域計画策定にかかる事務手続き等の確認（他市町村との合同協議）
- 令和6年度：1回実施（令和7年2月19日）
策定進捗状況の報告・今後のスケジュールの確認

8. コンサルティング業者への一部業務委託

専門的な知識等を有する事業者に、支援業務を委託している。内容は、既往の文化財悉皆調査の整理、各地区ワークショップの企画運営、図表等の作成、策定協議会や文化庁との協議の補助等。

文化財保存活用地域計画 地区ワークショップ開催報告

1. 目的

①町民への普及啓発

身近にありすぎて認識されていない「文化財」を、文化財保護法等による指定の有無や類型に関わらず地域にとって大切な「宝物」として捉え、その価値や保存・活用の取組み等を知ることによって文化財への理解を促進し、町民自らが文化財の保存・活用に参加していくための下地を形成する。

②町民意見の深化

今年度10月に全戸配布した町民アンケートの結果を共有するとともに、参加者とともに「地域の宝物」の抽出や、保存・活用の取組みの検討を行い、文化財保護への考えをより深化させる。

③地域計画への反映

ワークショップで得られた結果を地域計画に反映させる。

2. 名称

●●地区の宝物を語る会 ※●●には各地区の名称を記入

3. 対象

町全域の住民（三春、御木沢、沢石、要田、中郷、中妻、岩江の7地区に分けて実施）

※三春、御木沢地区は三春町歴史民俗資料館とプレック研究所の職員が実施。

沢石、要田、中郷、中妻、岩江地区は三春町歴史民俗資料館の職員が実施。

※事前申込制だが当日参加も可。

4. 時期、時間

令和7年1月～3月の土日祝日で、各地区2時間半程度。

5. 広報

チラシを各地区に配付。あわせて、町公式LINEにて記事を配信。

6. 内容

プログラム	内容	時間
開会		5分
説明1	地域計画の概要、地域の宝物の定義、文化財類型、これまでに行ってきた町の文化財に関する取組み等について担当者からパワーポイントで説明。	15分
説明2	ワークショップ全体の進め方について担当者からパワーポイントで説明。	5分
ワーク1	<p>地域の宝物を探そう</p> <p>町民アンケートで挙げた「地域の宝物」を参考に、身の回りにある宝物を参加者が協議・検討した。</p> <p>①町民アンケートで挙げた「地域の宝物」について、担当者からパワーポイントで説明。</p> <p>②5～10人程度のグループに分かれ、各グループで身の回りの地域の宝物について話し合い、宝物の位置図を作成。</p> <p>※位置図は宝物がある場所に丸シールと付箋を貼ったもの。付箋には宝物の名前を記載（分かれば概要、場所、時代も。町民アンケートで挙げられていないものが望ましいとした）。</p> <p>③宝物の位置図を前に貼り、各グループの代表者が順番に発表。</p>	50分程度

プログラム	内容	時間
休憩		10分
ワーク2	<p>地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう</p> <p>町民アンケートで挙げられた「地域の宝物に関して不足している取組み」に対し、町がすべきこと・したら良いと思うこと、町民ができることを参加者が協議・検討した。</p> <p>①町民アンケートで挙げられた「地域の宝物に関して不足している取組み」について、担当者からパワーポイントで説明。</p> <p>②アンケートで特に回答者の多かった、「後継者の育成・確保」、「学校教育での活用」、「情報発信」、「展示、講座、イベントの充実」、「文化財を活かした観光、まちづくり」について、ワーク1と同様に、各グループで町が何をすべきか・したら良いと思うか、町民が何をできるかを話し合い、付箋に記載。</p> <p>③各グループの付箋を大判用紙にまとめ、会場の前に貼って、各グループの代表者が順番に発表。</p>	50分程度
閉会		5分

7. 地域計画への反映方法

ワーク1・2の結果は、以下の地域計画の項目へ反映することを検討する。

ワークショップの内容	計画への主な反映箇所
ワーク1:地域の宝物を探そう	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章 文化財の概要 ・文化財リスト
ワーク2:地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・第6章 保存・活用の課題・方針 ・第7章 保存・活用の措置 ・第10章 推進体制

8. 結果

①三春地区

1)実施概要

日時：令和7年1月18日（土）9:30～12:00

場所：三春交流館「まほら」学習室C・D

参加人数：19人（Aグループ7人、Bグループ6人、Cグループ6人）

2)ワーク1(地域の宝物を探そう)の結果

- ・事前の町民アンケートで回答がなかった民俗文化財（有形）に該当する宝物が挙げられた。
- ・地区内に点在する身近な「桜」の名所や「花見」の文化が挙げられた。
- ・三春町の過去の姿を示すものとして、指定文化財類型にはない「地名」が多く挙げられ、由来を知りたいという声があった。

ワーク1(地域の宝物を探そう)で挙げられた宝物一覧(抄)

旧清水寺、丈六薬師堂、八幡神社、八雲神社、雪村庵、旧松島太鼓店、狛犬、正徳六地藏（正徳地藏尊）、真照寺の書、なで牛、看板、丈六焼、中町若連の花車（山車）、祠、天沢寺の身代り地藏尊祭り、八雲神社の祭り、花見、百杯宴の碑、旧小浜街道、山越の道、上遠野氏宅の桜、栗山氏宅の桜、丈六の桜、茶室跡地の桜、湊家の桜、弓町の遊郭跡（新庚申坂）、御免町の通りの風情、農村風景、見渡神社、鳥の渡り、地名：会下谷、尼ヶ谷、込木、過足、一本松、馬場、北向町、日向町、担橋、松橋、持合畑、烏帽子石、弓町、師範場

3)ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)の結果

- ・「情報発信」や「文化財を活かした観光・まちづくり」等の「活かす」取組みの前提として、「調査」（宝物の発掘）を行うべきという意見が挙げられた。ワーク1から着想を得た意見も含まれていた。
- ・祭礼の維持に関わる意見が挙げられた。

ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)で挙げられた取組み一覧

大分類	小分類	意見
学校教育での活用	体験学習の実施	学校が行う寺や神社の見学内容が乏しいと感じるため、坐禅等の体験を取り入れる。
	偉人に関する授業の実施	郡山市と田村市の小学校では授業で坂上田村麻呂について説明した冊子を用いている。
	地域との連携	学校教育という括りを超えて地域での教育に力を入れる。
情報発信	ホームページの充実	正確な情報をタイムリーに発信する。管理者をどうするかが課題。
	案内板の整備	町外の人でも分かりやすいよう、デザインを統一した看板を設置する。
	マップの作成	眺めが良い場所や写真を撮りやすいビュースポットを示したマップを作成する。
		紫雲閣等の蔵の撮影スポットを示したマップを作成する。

大分類	小分類	意見
情報発信	マップの作成	ワーク1で出たような宝物について詳しい人を掲載した「人間マップ(パンフレット)」を作成し、それを使って町内を巡ってもらう。徒歩と車の両方で回れるよう、三春町役場や三春町民第2体育館の駐車場も掲載しておく。
	SNSの活用	三春町の観光協会ホームページの担当者が管理する等してYouTubeで歴史講座を公開する。興味がある人が見ると思う。
	テレビ番組での紹介	全国や県のテレビ番組で三春の宝物について放送してもらい、観光客を呼ぶ。
	宝物の公開	各家や各店が持つ宝物を観光客に公開する。
展示・講座・イベントの充実	展覧会の開催	最近町で仏像等の盗難が多発しているため、それらが発見された際に「盗まれた仏像展」を開く。
	祭礼の参加特典の設定	祭礼に参加するとお札をもらえたり祈禱を受けられたりする等、特典を用意して参加者を増やす。
文化財を活かした観光・まちづくり	道の整備	歩きたくなる道、立ち止まって休むこともできる道に整備する。
	祭礼参加者の募集	祭り参加者を町外からも募集する。(会津坂下町の大俵引きや、柳津町の七日堂裸詣りには外国人も参加していると聞く)
その他	調査	各家にある宝物(掛け軸や刀)を調査する。
		滝桜の子孫の分布図を作成する。
		三春交流館まほらやヨークベニマル、公民館、学校等の人が集まる場所に三春町全域あるいは部分的な白地図を設置し、宝物のある場所を書き込んでもらう。
		小さい白地図・用紙とボックスを設置し、身近な宝物を気軽に書き込んでボックスに入れてもらう。
保存に取り組んだ上での活用	①文化財を分類する、②文化財をレイヤー・階層ごとに分ける、③保存の手段を考える、④実行する、⑤保存と合わせて活用方法も考える。民間企業のPRに宝物を活用することで、行政や専門家だけでなく民間企業からの協力も得る。	
体制の充実	文化財の保存・活用のアイデアに明確な責任者をつけるため役場に専門の課を設置する。	



三春地区会場の様子

②御木沢地区

1)実施概要

日時：令和7年1月18日（土）13:30～16:00

場所：御木沢地区公民館 2階 会議室

参加人数：40人（Aグループ12人、Bグループ14人、Cグループ13人、傍聴1人）

2)ワーク1(地域の宝物を探そう)の結果

- ・神社、地蔵、講、桜が多く挙げられ、地域の方にのみ広く知られている宝物も含まれていた。
- ・「粟神神社」「蚕養神社」「塩の道」「戸ノ内桜」は全てのグループから共通して挙げられており、地区住民にとって重要な宝物だといえる。
- ・「塩の道」や「武内村長顕彰碑」が挙げられており、今も昔も交通の要衝である地区の性格がうかがえる。

ワーク1(地域の宝物を探そう)で挙げられた宝物一覧(抄)

粟神神社（粟神様）、巖島神社、稲荷神社（お稲荷さん）、熊野神社、蚕養神社（蚕養様）、菅船稲荷神社、諏訪神社、高台稲荷神社、七草木神社、見渡神社、愛染明王像、穴地蔵、子守地蔵、虚空蔵尊、物外地蔵、地蔵、平沢満願虚空蔵尊、平沢国蔵様、馬頭観音、見渡神社の獅子頭、塩の道（塩街道、相馬街道）、七石、ばくち石、巖島神社の神楽、お釜講、地蔵講、天神講、酪農牛乳、結婚式の風習、小山館跡、七草木館跡、国府斉翁碑、武内村長顕彰碑、平沢雉、忠助桜、戸ノ内桜、天神桜（殿作桜）、七草木桜、西ノ内桜、イボ清水、圃場基盤整備フィルム、地名：「御木沢」、「七草木」、「御祭」「師々作」

3)ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)の結果

- ・三春駅を活用した移住者の増加や観光客へのPRのための取組みが挙げられた。
- ・今回のワークショップの結果を保存、公開、継続的に実施したいという意見が挙げられた。
- ・町だけでなく町民が主体となる取組みが多く挙げられた。

ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)で挙げられた取組み一覧

大分類	小分類	意見
後継者の育成・確保	祭礼への参加の推進	小学生の頃から子供達を祭りや伝統文化に参加させる。
	家庭での会話	祖父母が孫に直接歴史や文化を伝えることが最も心に残る。
	人口増加	地区内に三春駅と御木沢小学校があることを生かし、宝物の後継者を確保する前提としての人口増加に取り組む。
学校教育での活用	体験学習の実施	特にだんごさしやほうろく焼き等の食文化については、教科書を読むだけでなく体験してもらおう。
	映像学習の実施	文字情報ばかりでなく映像を見て勉強する方が分かりやすい。
	出前講座の実施	出前講座を実施する。

大分類	小分類	意見
学校教育での活用	地域との連携	三春町の小学校はコミュニティ・スクールであるため、地域と学校の連携をこれまで以上に繋げ、三春城下町以外の三春の歴史についても学べるようにする。
情報発信	案内板の整備	看板を設置する。
	SNS の活用	観光客を呼ぶために YouTube、TikTok、X 等を活用して情報発信する。三春町の観光に満足した外国人が SNS を使って魅力をアピールしてくれると日本人も来る。
	コンセプトの明確化	三春町ホームページに書かれたコンセプト「桜と歴史と文化の城下町」のイメージが曖昧。「小さな城下町 三春」や「東北の小鎌倉」など物語性を出した方が良い。
展示・講座・イベントの充実	イベントの開催	年に一度の地元の文化祭のようなイメージで、今回のワークショップを継続する。
	語り部の発足	昔の三春町について語る語り部を作る。
文化財を活かした観光・まちづくり	ツアーの実施	寺や神社の宿坊や精進料理、坐禅、講話等を活用し、三春の物語を知ることのできるツアー等を実施する。
		案内板だけでは目的地まで行けない人もいるため、観光バスを走らせて寺巡りをしたり、そこで住職から説明を聞いたりできるようにする。
	道の整備	バスが停車できる駐車場を作る。
		桜の植栽や歩道の整備を行う。
	施設の整備	駅前健康サロンが使われていないので資料館の分室的役割をもたせる。駅前の活用、整備が重要。
		寺や公園の草刈りをする。
		三春城址を整備する。
碑の建立	水道設備を整備する。(観光客用の公共トイレや人口増加に向けた移住者の住宅のため)	
	愛姫の碑を駅前に作る、資料館までの道に偉人の顕彰碑を建てて読みながら歩けるようにするなど、町出身の偉人についてもっと取り上げる。	
観光客への案内	外国人に会った場合は積極的に声掛けする。	
その他	調査	今回のワークショップの結果を発信し、当日来なかった人からも宝物についての情報を募集する。
		今回のワークショップの情報を記録、保存する。
	偉人の検証に注力する。「もしもし」という言葉を作った加藤木重教や火災報知器の発明者は三春町出身者。	
保存に取り組んだ上での活用	今ある宝物の維持、保存に注力する。	

③岩江地区

1) 実施概要

日時：令和7年1月25日（土）13：30～16：00

場所：岩江地区防災コミュニティセンター

参加人数：12人（Aグループ5人、Bグループ7人）

2) ワーク1の結果

- ・大峯の玉ヶ滝と天満宮、北山地蔵尊については両方のグループから挙げられており、重要な地域の宝物といえる。
- ・守山藩領であったこともあり、隣接する郡山市域のものが複数挙げられた。
- ・竹細工や菅笠づくりといった産業に関するものが挙げられた。

ワーク1(地域の宝物を探そう)で挙げられた宝物一覧(抄)

首洗い池供養塔、大宮権現、三光稲荷、旧見渡神社、郷倉、弘法様（地蔵）、大ヤマツミ神社、（山津見神社？）、観音堂、水車・米つき、美代淵、寺山観音堂、砂鉄錬成、郡山・三春間馬車、愛宕神社、天満宮、玉ヶ滝、子安地蔵堂、北山子育て地蔵堂、上舞木の竹細工、今朝三桜、戸ノ内供養塔、ファームパークいわえ、旧墓地、上舞木供養塔婆、古い墓、雷神様、馬頭尊石碑群、正一位稲荷神社、旧鳥居（石製、破損）、薬師堂の蔵物、薬師如来のかやの木、カタカナの地名、菅笠づくり、天神講

3) ワーク2の結果

- ・A、Bグループ双方で、子どもへの教育を重視すべきとの意見が出された。そのために、まずは地域の伝えていくべき歴史や文化財などをわかりやすくまとめた資料が欲しいとの意見も出された。
- ・三春町合併70周年を迎えるにあたり、合併時のいきさつをはじめ、地域の歴史の大きな流れを踏まえたうえで文化財等について説明していくべきとの意見もあげられた。

ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)で挙げられた取組み一覧

大分類	小分類	意見
後継者の育成・確保	語り部育成	語り部の育成をする
	地域イベントでの紹介	岩江の文化祭で紹介
		サロン活動で紹介
	学習会の実施	地域の歴史を学ぶ会を作る
知っている人が地区(学校)で話してほしい		
学校教育での活用	地区の歴史の学習	学校の授業で子供たちに見て、知ってもらう。そうすることで、親にも伝わる。
		地元のOBが学校の授業の一環として見学等授業を行う
		地名の由来を調査し、学校で説明する
	教材・資料の作成	(文化財や歴史を伝えていくにあたり)子供達向けのものとは大人向けのものとは2パターン作成する。
残したいものをピックアップする→資料としてまとめる→大人用と子供用に分		

大分類	小分類	意見
		け、伝える。
情報発信	ツアー実施	地元探検ツアー開催。
	若年層の取り込み	若年層者との協力関係強化。
	新規居住者へのPR	新規居住者に積極的PR。
	Web公開	昔の情報を記録としてまとめ、Webで公開する。
文化財を活かした観光・まちづくり	祭りへの着目	11月3日に祭りが集中しているが、その由来を役員が勉強し、子供たちと話し合う。
その他	記録・保存	寺社の宝物等についてなど、記録してデータを残しておく。
		風化しないように保存する。
		合併時のいきさつの記録。



岩江地区会場の様子

③ 沢石地区

1) 実施概要

日時：令和7年1月26日（日）9:30～12:00

場所：沢石会館

参加人数：24人（Aグループ8人、Bグループ7人、Cグループ5人、Dグループ4人）

2) ワーク1の結果

- ・堂平遺跡はすべてのグループからあげられてた。また、この後のワーク2も含めると、青石・移川発電所、中山家住宅は多くのグループから言及があり、重要な地域の宝物といえる。
- ・寺社を挙げるグループが多かった。
- ・地区内に点在する石碑・石塔等も多く挙げられ、調査が必要との声があった。
- ・桜だけでなく「砂山」やゲンジボタルも挙げられるなど、天然記念物に分類される「地域の宝物」にも着目されていた。

ワーク1(地域の宝物を探そう)で挙げられた宝物一覧(抄)

移川発電所、現人神社、薬師堂、青石坂大桜2本、大北大桜1本、青石発電所、稲荷神社（青石）、火雷神社、八坂神社、生田神社、愛宕神社、お地藏様、稲荷神社（北ノ内）、枝垂桜、天日鷲神社、山津見神社、瑞祥寺、八幡神社（実沢）、高木神社、高木神社三匹獅子、堂平遺跡、ゲンジボタル、ほたるの里、あじさいロード、大日様、中山家住宅、大黒様石像、弘法石、殺生供養塔、天日鷲神社の金の幣束、富沢五箇、大木屋戸石塔群、大日如来の桜、忠魂碑、砂山、沢石4区公民館前石碑、長寝の景観

3) ワーク2の結果

- ・後継者の育成・確保においては、人口減少を見据え、まずは記録保存が重要との意見が複数あげられた。
- ・学校教育内での地区の歴史学習に期待を寄せる意見が多くあげられた一方で、学校の統合により地域学習がしにくくなるのではないかと懸念も寄せられた。
- ・堂平遺跡、中山家住宅、青石・移川発電所の保存・活用の取組について複数のグループから提案があった。

ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)で挙げられた取組み一覧

大分類	小分類	意見
後継者の育成・確保	少子化対策	後継者不足は少子化が根本的な問題であり、そこをどうするか検討しないといけない。
	記録の作成	後世に引き継ぎたいものを書面で書いて残すこと。
	語り部の育成	直接口伝えて伝えられる「語り部」を育成する。
	動画の記録	VTR,DVD など、動画・映像で残す。 動画、デジタルデータで残す。
	世代交流	高齢者と子どもとの交流の場をつくり、伝承していく。

大分類	小分類	意見
	データ化	人口増加は見込めないなので、まずは記録を残す。 有形文化財は資料・写真等でデータ化する。 無形文化財は資料・動画でデータ化する。
	参加資格の緩和	(特に民俗無形文化財について)年齢や性別にこだわらないで、興味のある人が参加できるようにする。
学校教育での活用	文化財の見学	中山家住宅や堂平遺跡を保存整備し、学校教育の中での校外学習をしやすい環境を作る。
		中山家住宅を見学できる日を設ける。
		堂平遺跡や発電所を、遠足等の行き先として見学し、学習する。
		町内を回る活動を行う。
	地区の歴史の学習	学校で地域の昔ばなしの時間を作り、伝承していく。 沢石の成り立ちを学んだり、自分の姓の発祥について等を調べる授業 中学校だけでなく小学校も統合されると、沢石の歴史を学校で教えるのは難しいのではないか。 自分の住んでいる所や各地区のことを知る・勉強する時間を設ける。
行事への参加	地区の行事に参加してもらう。	
教材の作成	歴史の小冊子を作成し、理解を深める。	
情報発信	広報誌の活用	町の広報誌に各地区の文化財に関する記事を掲載する。
	基礎知識	情報発信のためには、まずは地元の人が地元のことを知ることが大事ではないか。
	立て札・看板の整備	立て札を設置する。 主な文化財の場所を図にして、大きな看板を作る。
	SNS 活用	インスタ等の SNS を利用。
	町公式 LINE の活用	三春町公式 LINE の普及を図る。 地区行事前に、町公式 LINE 等で発信する。
	HP の充実	ホームページを充実させる。
	発信手段の充実	SNS、手書きチラシ、動画など、様々な形を組み合わせで情報発信する。
	地区ごとの発信	地区ごとの発信を行う。
	SNS 投稿へのインセンティブ付与	SNS 等で発信してくれた方へポイントを付与する。
展示・講座・イベントの充実	文化財を巡るイベント	地元文化財をみて歩く企画。例えば、富沢五館を巡る、発電所、社寺などを巡る等。
		沢石地区の人がガイドする文化財めぐりウォーキング。
	発電所に着目	移川、青石発電所を取り上げて欲しい。
	情報収集	地区を歩き、由来などを聞き取りし、まとめる企画。
	地域イベント	季節の野菜などを庭先販売する。
講演	地域のガイドができるような人の話を聞く機会を作る。	
文化財を活かした観光・まちづくり	町施設の活用	文化財の保管場所の確保。町で使用していない「箱物」を利用してはどうか。
	空き家の活用	空き家をリノベーションして文化財の保管場所等に活用してはどうか。
	堂平遺跡の復元	堂平遺跡を復元して欲しい。
		堂平遺跡を高木神社周辺にレプリカで再現し、そのあたりを文化財地域とする。
	中山家住宅の保存	中山家住宅を町で保存できないか。
ゲームの作成	スマートフォンを使った、文化財を巡るイベントゲームを作る。	
その他	文化財の調査	各文化財の成り立ちや歴史を調査する。
	言い伝えの調査	言い伝えを(学術的見地から)検証する。

④中郷地区

1)実施概要

日時：令和7年1月26日（日）13：30～16：00

場所：中郷地区交流館

参加人数：14人（Aグループ8人、Bグループ6人）

2)ワーク1の結果

- ・滝桜、御殿場、蛇石王子神社、龍光寺、甘酒祭りについて、両方のグループから挙げられており、重要な地域の宝物と言える。
- ・特に樋渡をはじめとした三匹獅子舞については、グループワーク中に言及する方が多く、伝統芸能への関心が高いことが伺えた。
- ・甘酒祭りや山の神講、権現講などの行事も挙げられた。

ワーク1(地域の宝物を探そう)で挙げられた宝物一覧(抄)

滝桜、御殿場、蛇石王子神社、蛇石王子神社境内蛇石、金水法印様、田村観音堂、樋渡熊野神社、樋渡三匹獅子舞、樋渡観音堂、菅舟神社（菅布禰神社）、天神講、山の神講、龍光寺、龍光寺境内、不動尊、観音像、龍光寺境内不動尊 絵馬、狐田稲荷神社、旧岩城街道、見渡神社の絵馬、見渡神社、込木地蔵桜、お念仏、数珠回し、甘酒祭り、込木旧公民館跡にある石碑群、滑津観音堂、稲荷神社（滝）、稲荷神社（滝）、三匹獅子舞、三地区での三匹獅子舞、観音堂、見渡神社、日枝神社、薬師堂、柴原神社、薬師様、大石稲荷神社、お大師様、松笠地蔵、権現様、権現講、三春大神宮の元地、貝山道祖神、白山比咩神社、岩田甘酒祭り

3)ワーク2の結果

- ・2025年春に中郷地区にオープン予定のモンベルストアの活用について複数意見が挙げられた。
- ・クラウドファンディングや新たなキャラクターの作成など、新しい取り組みをしてほしい旨の意見が寄せられた。
- ・伝統芸能に関して、人材育成から資金確保まで、幅広い意見が寄せられた。

ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)で挙げられた取組み一覧

大分類	小分類	意見
後継者の育成・確保	広域での人材育成・確保	集落を超えた広域での人材確保・育成
	クラブ活動	地域の理解のもと、三匹獅子の踊り手の継続のため、クラブ活動化したい。
	広報拡充	広報、宣伝、募金、カンパを積極的にやる。
	移住者の誘致	最終的には、移住者を受け入れるしかない。町として移住受け入れに力を入れる。資金補助など
	ボランティアの組織・育成	歴史ボランティアの組織・募集。滝ザクラだけでなく組織づくり。

大分類	小分類	意見
	若年層へのPR	若い人に興味を持ってもらう必要がある。
学校教育での活用	語り部育成	語り部育成。
	学校授業での取り組み	地域学習の増強。授業の一環として取り入れる。 地元の文化財について、知る、見る機会を増やし、興味を持たせる。
情報発信	メンバーの活用	メンバーの活用。ビジターセンターの活用、パンフレットの設置、店内でのデモンストレーションなど
	広報誌の活用	町広報での周知を充実させてほしい。
	インターネットの活用	インターネットの活用。
		町のYouTubeで紹介する。 Instagram、ティックトックの活用
	看板設置	史跡などの由来を説明する看板の設置。
	テレビ・ラジオの活用	テレビ・ラジオ番組の作成 例) 戊辰戦争と三春、歴史散歩 など
	まち歩き企画	神社巡りの企画
展示・講座・イベントの充実	動画作成	紹介ビデオの作成
	伝統芸能の披露	各地区の総会で民俗芸能を実演して、他地区の芸能を知ってもらう。
		地域に関する展示の際、三匹獅子と共演する。
		三匹獅子舞について、敬老会での披露
	文化財保存をテーマとした展示	盗まれた文化財展、壊された文化財展の実施
	資料館の移転	歴史民俗資料館の移転。まほらに移転させる。
グッズ作成	三匹獅子舞について、グッズ作成、御朱印作成	
文化財を活かした観光・まちづくり	メンバーの活用	メンバーを起点とした、サイクリングやトレッキングコースを設定(中郷地区を中心に、ショートコースで)
	看板設置	説明板の充実
	伝統芸能の披露	伝統芸能を集約して披露するイベントの企画
その他	助成申請手続きの簡素化・増額	文化財にかかる助成を簡単にしてほしい。また、金額を増額してほしい。
	クラウドファンディング	クラウドファンディングの導入
	新しいキャラクターの作成	三春町の新キャラクター「伝統戦隊祭りレンジャー」三匹獅子、長獅子、盆踊り、ひよっこ、神楽



中郷地区会場の様子

⑤要田地区

1)実施概要

日時：令和7年2月2日（日） 14：30～16：00

場所：要田地区交流館大平荘

参加人数：23人（Aグループ7人、Bグループ9人、Cグループ7人）

2)ワーク1の結果

- ・隣接する田村市域のものが多く挙げられ、町域を超えた文化圏が広がっていることがわかる。
- ・寺社が多く挙げられているが、伝説が伝えられている古殿の大井戸や鹿壇なども挙げられており、地域の伝説・言い伝えが今に残っていることが伺える。

ワーク1(地域の宝物を探そう)で挙げられた宝物一覧(抄)

成田神社、平堂壇の桜、南成田の大桜、廣伝寺、天王様、丸塚、春日神社、宝樹寺、熊耳薬師如来堂、要田駅、熊野神社、大聖寺、三輪神社、笹山神社、満円寺、古殿（ふんど）の大井戸、八雲神社、鹿壇、馬捨場、お釜講、古峰神社講、家老石、舞壇、庄司西之内館跡、権現様、鹿島大神（鹿島神社）、観音様、観音様（荒和田）、権現様、鹿島神社（西ノ内）の祭り、数珠回し（5番組）、おぼしなさま、お地藏様、馬頭観音、庚申様、花取地藏尊、笹山城跡、子安地藏堂、馬頭観音、稲荷神社、下荒井の桜（仮称）

3)ワーク2の結果

- ・要田地区は小中学校ともに統合されたこともあり、学校教育での活用についてはあまり意見が寄せられなかった。
- ・記録の重要性を挙げる方が多かった。
- ・文化財の維持管理等について、支援を求める声が複数挙げられた。

ワーク2(地域の宝物をどうやって守り、活かせるか考えよう)で挙げられた取組み一覧

大分類	小分類	意見
後継者の育成・確保	子供への伝承	三春盆踊りに関して、子供たちに太鼓や踊りを教えておく。社会人になってから助かることがある。
	若年層への伝承	次世代を担う若者に参加してほしい
学校教育での活用	勉強会の開催	小中学校で文化財の勉強会をすることができないか。
情報発信	セキュリティとの両立	寺社の情報を開示するのはいいと思うが、セキュリティを考えること。
	文化財を語る場	民俗芸能を継承する大切さを話す場を作してほしい。
	SNSの活用	SNS等を活用し、神社等の記録を発信する。
その他	将来像の構想	文化財、歴史とは人間の営為・社会そのもののありようと深くかかわっており、保存すべきものは何かを考えると、未来の社会をどういうものにしていくかを構想するところから始めなくてはならない。

大分類	小分類	意見
	調査・記録・保存	文化財として残すため、先輩の話を聞いて取りまとめる。
		神社等の記録を残す取り組みをする。
		文化財の調査
		今あるものを大切に守っていく
	財政的支援	財政的援助(助成)を増やしてほしい。
	建物の維持管理	観音様の建物の屋根が錆びているので、修繕できないか。
天神様の建物の周りの木が大きくなりすぎて、自分たちでは処理できない。		



要田地区会場の様子

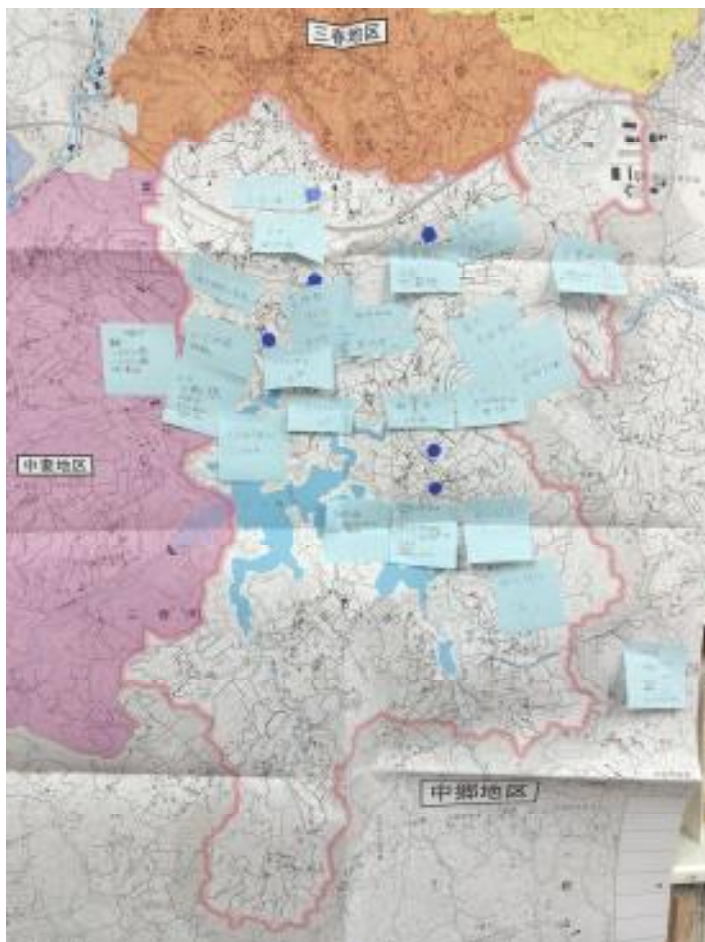
⑥中妻地区

1)実施予定

日時：令和7年3月20日（木）13:30～

場所：中郷地区交流館

<参考>



ワーク1で作成した地図（中郷地区）

後継者の育成・確保	
学校教育での活用	
情報発信	
展示・講座・イベントの充実	
文化財を活用した観光・まちづくり	
その他	

ワーク2で作成した表

文化財保存活用地域計画 アンケート調査 実施報告

地域計画作成にあたっての調査の一部として、町民・中学生、文化財所有者、文化財保存会を対象とした3種類のアンケート調査を実施した。

1. 概要

①目的

【町民への普及啓発】

アンケート調査をきっかけに、町民に三春町の指定等文化財や歴史や文化の特徴について知ってもらい、町民自らが文化財の保存・活用に参加していくための下地を形成する。

【文化財の状況把握】

町民の文化財への関心の度合いや傾向、三春町の文化財の保存・活用状況、文化財の保存・活用の課題、文化財の保存・活用に必要とされる取組、未指定文化財等を把握する。

【地域計画への反映】

アンケートで得られた結果を地域計画に反映させる。

②地域計画への反映方法

アンケート結果は、来年度以降、以下の地域計画の項目へ反映することを検討する。

【町民・中学生アンケート】

	質問内容	質問番号	計画への主な反映箇所
1	文化財への関心の度合いや傾向を把握するための質問	Q1～Q3	第3章 三春町の歴史文化の特徴 第6章 保存・活用の課題・方針
2	町民が考える未指定文化財を把握するための質問	Q4	第2章 文化財の概要、文化財リスト
3	文化財の保存・活用の課題を把握するための質問	Q5	第6章 保存・活用の課題・方針
4	文化財の保存・活用に必要とされる取組を把握するための質問	Q6～Q7	第7章 保存・活用の措置

【所有者アンケート】

	質問内容	質問番号	主な計画への反映箇所
1	文化財の保存・活用状況を把握するための質問	Q1～Q5	第6章 保存・活用の課題・方針
2	文化財の保存・活用の課題を把握するための質問	Q7～8	第6章 保存・活用の課題・方針
3	文化財の保存・活用に必要とされる取組を把握するための質問	Q6 Q9～Q10	第7章 保存・活用の措置
4	関係する未指定文化財を把握するための質問	Q11	第2章 文化財の概要、文化財リスト

【保存会アンケート】

	質問内容	質問番号	地域計画への主な反映箇所
1	活動状況を把握するための質問	Q1～Q5	第6章 保存・活用の課題・方針
2	活動の課題を把握するための質問	Q7～8	第6章 保存・活用の課題・方針
3	活動に必要とされる取組を把握するための質問	Q6 Q9～Q10	第7章 保存・活用の措置
4	関係する未指定文化財を把握するための質問	Q11	第2章 文化財の概要、文化財リスト

③アンケート概要

【町民・中学生アンケート】

- ・調査対象：町民（中学生を除く）、中学生
- ・配布部数：町民 5,678 部（全戸に配布）
+ 『広報みはるが好き』10月号にアンケートの案内と回答用QRコードを掲載
中学生 411 部（全中学校に配布）
- ・回答期間：2024年10月1日～31日
- ・回収部数：町民 498 部（回収率 約9%）、中学生 327 部（回収率 約80%）

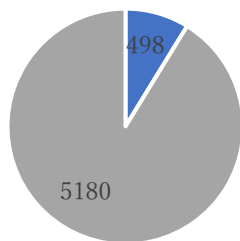
【所有者アンケート】

- ・調査対象：社寺、団体及び個人等の文化財の所有者・管理者
- ・配布部数：約32部（全ての所有者・管理者）
- ・回答期間：2024年11月1日～19日
- ・回収部数：14部（回収率 約44%）

【保存会アンケート】

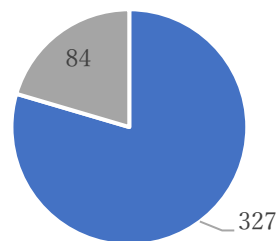
- ・調査対象：無形文化財（郷土芸能等）の保持者・保存会等
- ・配布部数：約17部（全ての保持者・保存会等）
- ・回答期間：2024年11月1日～19日
- ・回収部数：6部（回収率 約35%）

町民アンケート回収率



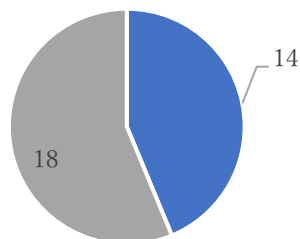
■ 回収 ■ 未回収

中学生アンケート回収率



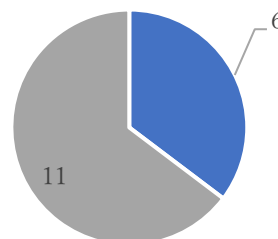
■ 回収 ■ 未回収

所有者アンケート回収率



■ 回収 ■ 未回収

保存会アンケート回収率



■ 回収 ■ 未回収

2. 結果

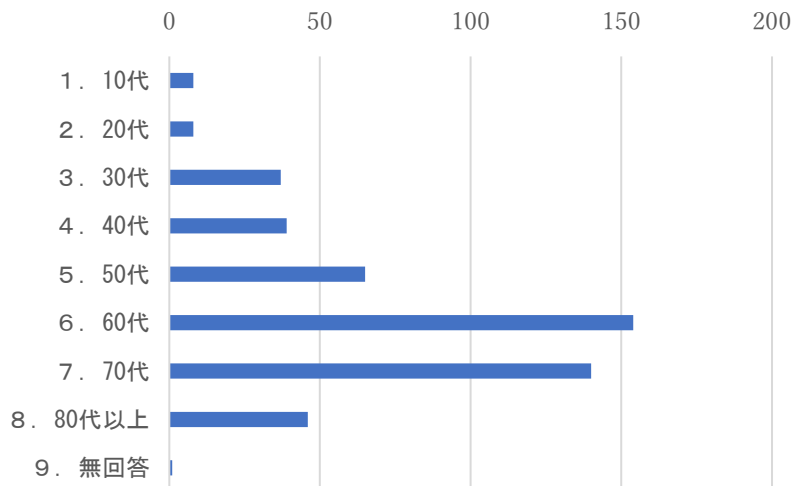
各アンケートの集計結果は以下のとおり。

【町民・中学生アンケート】※回答数：町民 498 件、中学生 327 件

年齢

- ・回答者の年齢で最も多かったのは、町民（中学生を除く。以下同）の中では「60代」（31%）、次いで「70代」（28%）だった。
- ・若年層に関しては、「20代」は全体の2%、「30代」は7%に留まった。

<町民>



居住地

- ・回答者の居住地で最も多かったのは、町民・中学生共に「三春地区」（町民 38% 中学生 40%）、次いで「岩江地区」（町民 25% 中学生 31%）であり、人口比を反映しているといえる。

出身地

- ・回答者の出身地で最も多かったのは、町民と中学生共に「三春町で生まれ育った」（町民 45% 中学生 67%）、次いで「三春町以外から転入した」（町民 39% 中学生 32%）だった。

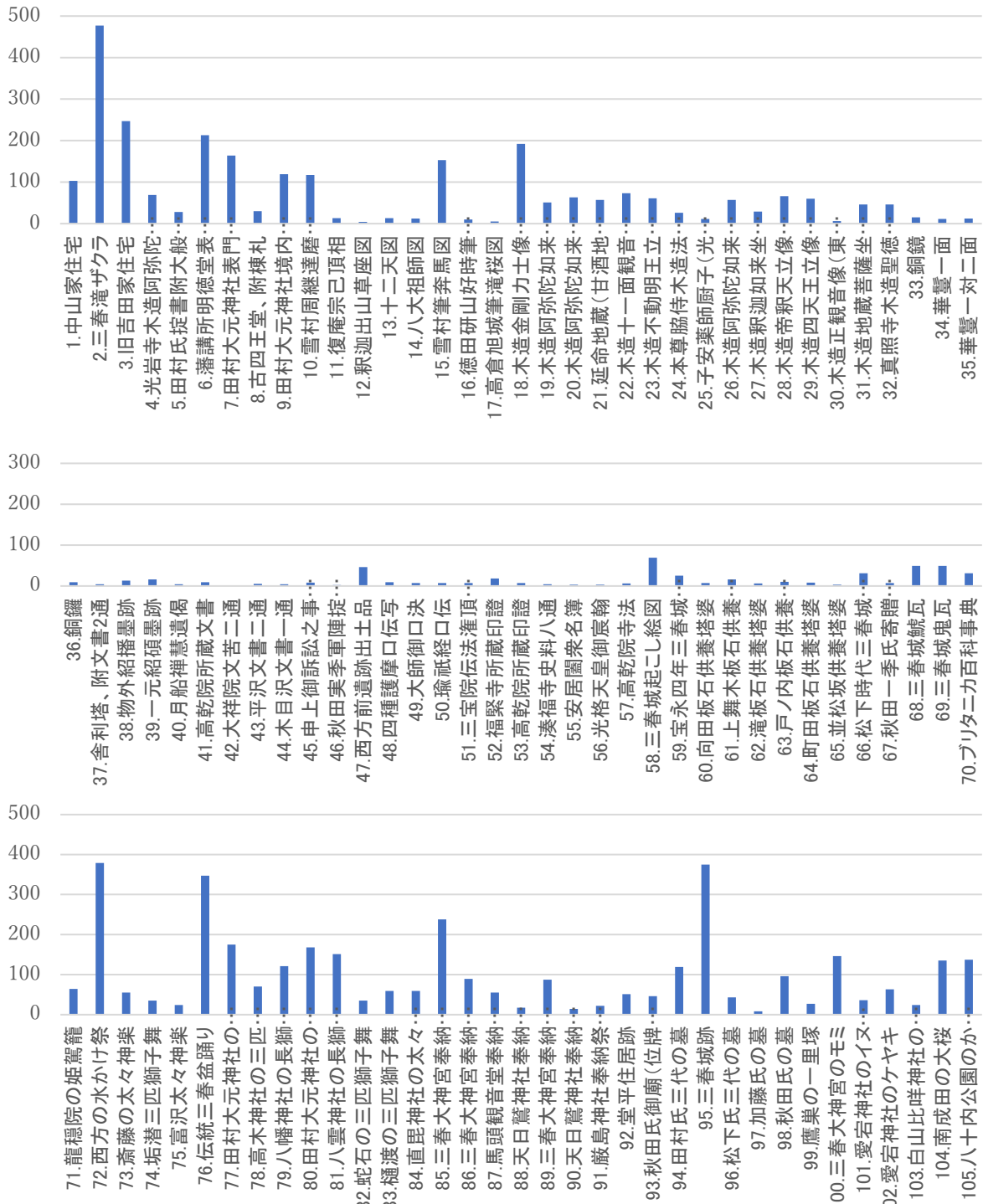
Q1. あなたは三春町の歴史や文化に関心がありますか。

- ・歴史や文化への関心について、町民で最も多かったのは「どちらかといえばある」（41%）、次いで「ある」（38%）だった。
- ・中学生では「どちらかといえばある」（41%）が最も多く、次いで「ある」（21%）、「どちらかといえばない」（20%）だった。

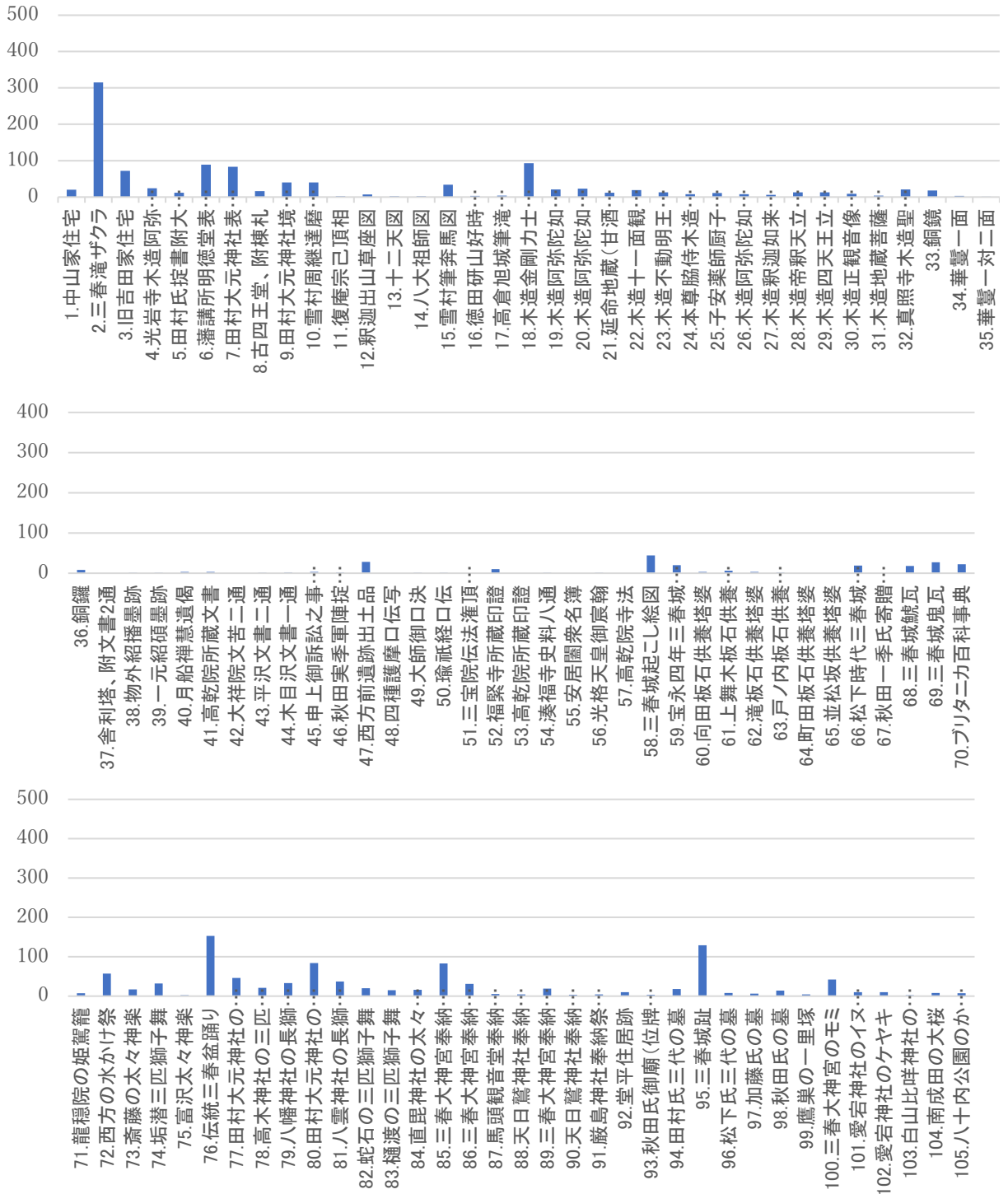
Q2. 別添の「三春町の文化財」を見ながらご回答ください。「三春町の文化財」に掲載されている指定等文化財のうち、知っているものがありましたら○をつけてください。(複数回答可)

- ・全ての指定等文化財の認知度の平均は、町民で13%、中学生で7%だった。
- ・町民の52%以上(平均の4倍)が知っている文化財は「2.三春滝ザクラ」、「72.西方の水かけ祭」、「76.伝統三春盆踊り」、「95.三春城跡」だった。
- ・中学生の28%以上(平均の4倍)が知っている文化財は「2.三春滝ザクラ」、「18.木造金剛力士像(田村大元神社)」、「76.伝統三春盆踊り」、「95.三春城跡」だった。
- ・最も知られている文化財は「三春滝ザクラ」で、町民と中学生のそれぞれ96%が認知していた。

<町民>



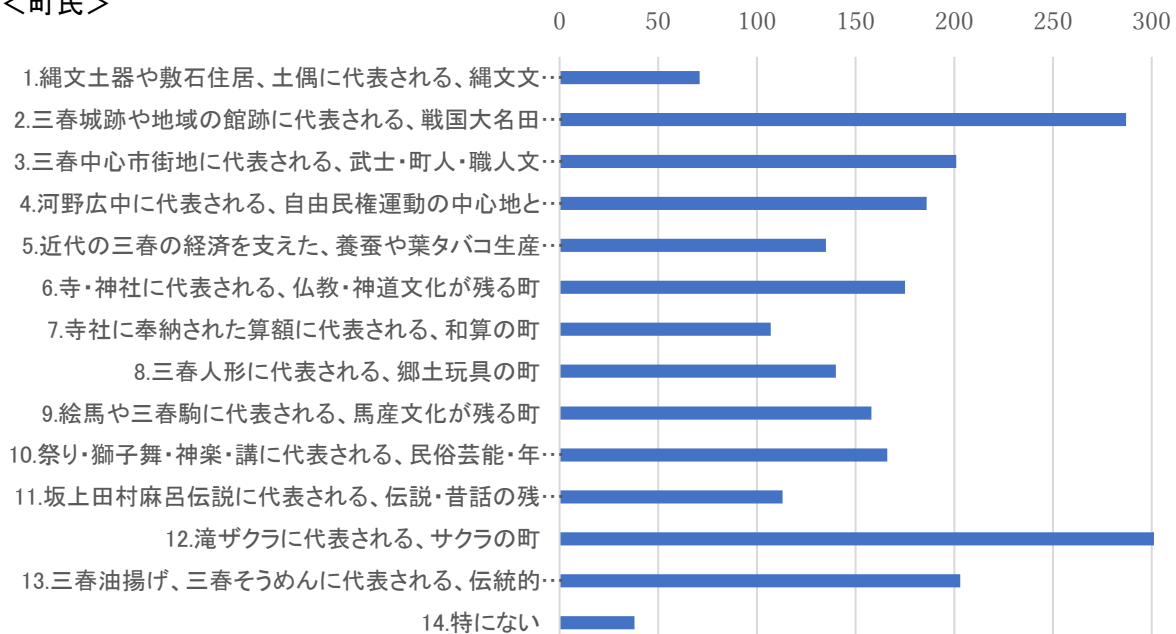
〈古巻生〉



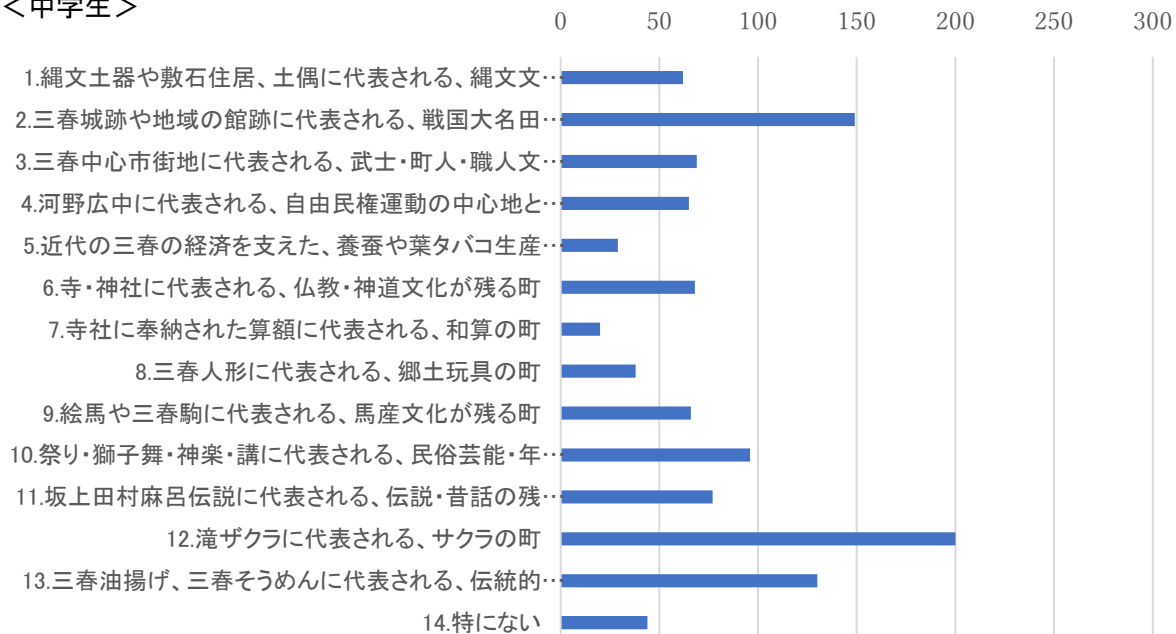
Q3-1. 三春町の歴史や文化を表す以下の特徴のうち、関心があるものや、もっとよく知りたいと思うものはありますか。(複数回答可)

- ・選択肢に挙げられた歴史や文化を表す特徴への関心度の平均は、町民で 33%、中学生で 24%だった。
- ・関心度が高い特徴として、町民と中学生で共通して特に多く挙げられたのは「12.滝ザクラに代表される、サクラの町」(町民 61%、中学生 61%)、「2.三春城跡や地域の館跡に代表される、戦国大名田村氏と愛姫の町」(町民 58%、中学生 46%)、「13.三春油揚げ、三春そうめんに代表される、伝統的な食文化が伝わる町」(町民 41%、中学生 40%) だった。

<町民>



<中学生>



Q3-2. 上記の他に、三春町を他の地域の人に紹介するとしたら、どのように紹介しますか。三春町の歴史や文化を表す特徴だと思ふことがありましたらご記入ください。(自由記述)

- ・ Q3-1 の選択肢以外の特徴として、町民からは、「東北の鎌倉・小京都」というキーワードや、画僧の雪村や登山家の田部井淳子氏等の人物、小浜海道関連や道標等の文化財、町中に蔵や坂道が多いといった特徴が挙げられた。
- ・ 中学生からは、グルメンチやピーマン等の近年の食文化、自然が豊かであることや地域の人が温かいといった特徴が挙げられた。
- ・ Q3-1 の選択肢以外の特徴を問う設問だったが、回答のうち半数以上は Q3-1 の選択肢に関連するものであり、「これら以外で三春町の特徴は語れないと思う」という意見もあった。

Q4. あなたにとって大切な《地域の宝物》はありますか。地区・住所（どこにあるか）や時代（いつのものか）も分かる範囲でご記入ください。(自由記述)

- ・ 町民と中学生合わせて、三春地区内で 37 件、御木沢地区内で 5 件、中郷地区内で 8 件、沢石地区内で 19 件、要田地区内で 12 件、岩江地区内で 20 件、中妻地区内で 12 件の地域の宝物（ここでは指定等文化財も含む）が挙げられた。
- ・ 各地区で複数人から挙げられた主な宝物は以下のとおり。

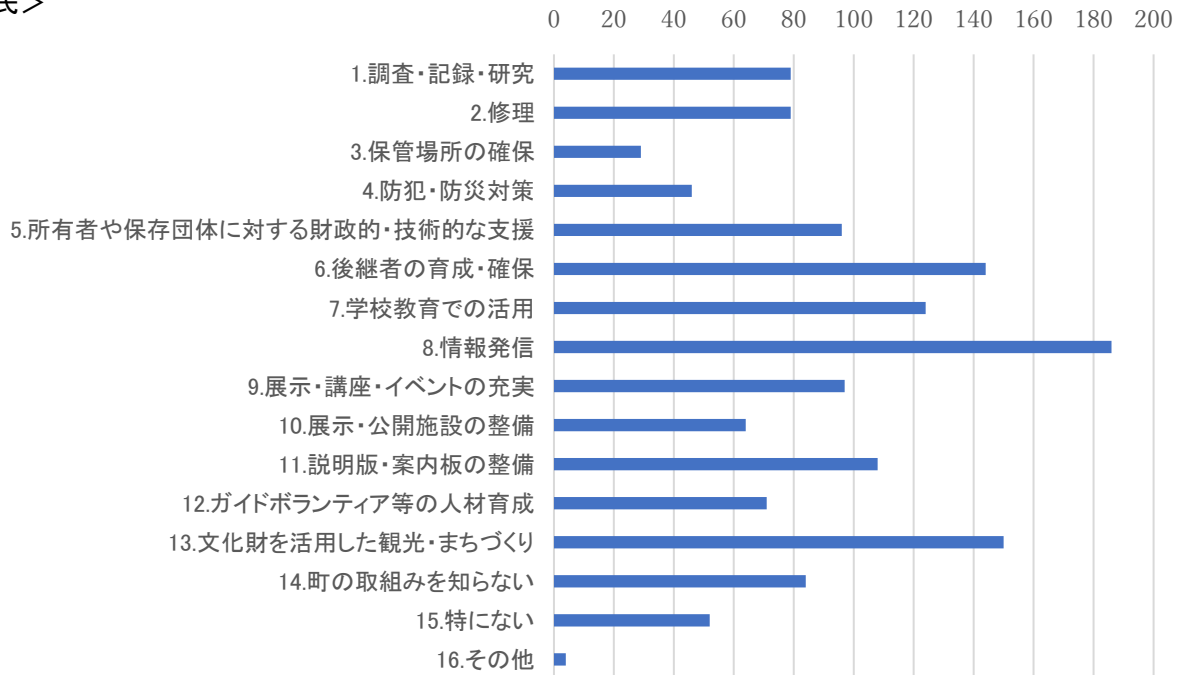
地区	複数人から挙げられた主な宝物	挙げた人数
三春	三春大神宮 秋季例大祭	町民 2 人、中学生 2 人
	盆踊り	町民 3 人、中学生 5 人
	旧遠藤医院	町民 3 人
	庚申坂	町民 4 人
	グルメンチ	中学生 11 人
	三春城跡（町指定）	町民+中学生 4 人
	藩講所明德堂表門（町指定）	中学生 16 人
御木沢	巖島神社（天井絵）	町民 1 人、中学生 2 人
中郷	春田大橋	中学生 4 人
	三春滝ザクラ（国指定）	町民 5 人、中学生 139 人
沢石	堂平遺跡	町民 2 人
	沢石盆踊り	中学生 2 人
要田	平堂壇の桜	町民 1 人、中学生 4 人
岩江	北山子育て地藏尊	町民 3 人、中学生 2 人
	今朝三桜	町民 1 人、中学生 4 人
中妻	三春ダム	町民 3 人
	西方水かけ祭（町指定）	町民 1 人、中学生 1 人

- ・ 上記の他、町全域に関わるものとしては、「油揚ほうろく焼」、「三春そうめん」、「三春ゆべし」、「ブルーベリー」等の食に関わるものや、「おぼんです」、「さすけねえ」等の方言、各地の田園風景等が挙げられた。

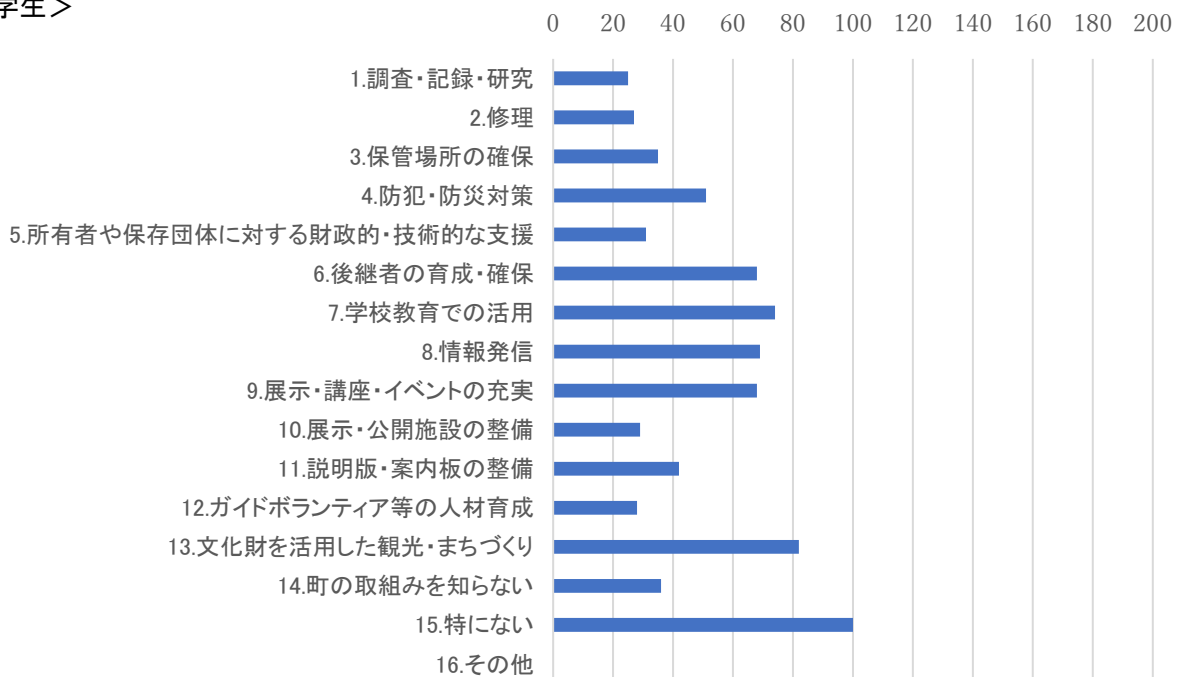
Q5-1. 町が行う文化財（指定等文化財、地域の宝物）の保存・活用の取組みの中で、不足していることは何だと思えますか。（複数回答可）

- ・不足している取組みとして、町民と中学生で共通して多く挙げられたのは「8.情報発信」（町民 37% 中学生 21%）、「13.文化財を活用した観光・まちづくり」（町民 30% 中学生 25%）、「6.後継者の育成・確保」（町民 29% 中学生 21%）、「7.学校教育での活用」（町民 25% 中学生 23%）だった。
- ・上記の他、中学生からは「15.特にない」（31%）、「10.展示・講座・イベントの充実」（21%）も多く挙げられた。

<町民>



<中学生>



Q5-2. 選択した項目について、具体的な内容があればご記入ください。(自由記述)

- ・「情報発信」に関しては「町民であっても知らないことが多い」や「滝ザクラ以外の文化財についてもPRした方が良い」等の意見があった。
- ・「文化財を活用した観光・まちづくり」に関しては「歴史や文化を現代風にコンテンツ化できていない」や「滝ザクラ以外のガイドツアーがない」等の意見があった。
- ・「後継者の育成・確保」に関しては「少子化等により三匹獅子舞や三春人形等の継承が困難になっている」等の意見があった。
- ・「学校教育での活用」に関しては「子供の頃から文化財に触れさせて地元愛を育てたい」、「三春町の小中学校に通った自分に文化財への知識が殆どなく関心も持ちにくかったのは、学校教育であまり扱われなかったからではないか」等の意見があった。
- ・上記の意見から、認知度の突出して高い三春滝ザクラ以外の文化財についても町民が子供の頃から慣れ親しみ、文化財を継承していくことが望まれていると考えられる。

Q6-1. 歴史や文化に関するイベントとして、どのようなものに参加してみたいですか。(複数回答可)

- ・参加してみたいイベントとして町民から最も多く挙げられたのは「文化財を巡るガイドツアー、現地説明会・見学会」(48%)、次いで「専門家の話を聞く講座、フォーラム、シンポジウム」(34%)だった。
- ・町民のうち30代以下の若年層から突出して多く挙げられたのは「土器作り等の体験型イベント」だった(10~30代の42%)。
- ・中学生から最も多く挙げられたのは「土器作り等の体験型イベント」(42%)、次いで「特にない」(35%)だった。

Q6-2. 選択した項目について、具体的な希望があればご記入ください。(自由記述)

- ・「文化財を巡るガイドツアー、現地説明会・見学会」に関しては、「短時間で周遊できるツアーに参加したい」や「子供と一緒に参加したい」等の意見が挙げられた。
- ・「専門家の話を聞く講座、フォーラム、シンポジウム」に関しては、「高齢者にも易しい内容にして欲しい」や「日中時間を確保することが難しい人のために夜間講座やオンライン講座を開いて欲しい」等の意見が挙げられた。
- ・「土器作り等の体験型イベント」に関しては、「子供が楽しめる、昔の玩具や食文化等に関わるイベントを開催して欲しい」や「親子三世代で参加できるようなイベントを開催して欲しい」等の意見が挙げられた。
- ・上記の意見から、イベントについては、内容だけでなく開催時間や方法を工夫し、高齢者や社会人、親子等、多様な人々が参加できる環境作りが望まれていると考えられる。

Q7-1. 歴史や文化に関するイベントの情報の入手方法として、どのようなものを希望しますか。(複数回答可)

- ・イベント情報の入手方法の希望として町民から突出して多く挙げられたのは「広報『みはるが好き』」(79%)、次いで「ホームページ、SNS」(39%)、「チラシの配布」(32%)だった。
- ・町民のうち40代以下からは「広報『みはるが好き』」(10~40代の76%)と「ホームページ、SNS」(10~40代の68%)が同程度に多く挙げられた。

- ・中学生からは「広報『みはるが好き』」(39%)、「テレビ、ラジオ」(35%)、「公共施設等でのポスターの掲示」(34%)、「ホームページ、SNS」(31%)が同程度に多く挙げられた。

Q7-2. 選択した項目について、具体的な希望があればご記入ください。(自由記述)

- ・「広報『みはるが好き』」に関しては、「見落とさないよう特集記事にして欲しい」や「文化財の紹介コーナーを設けて欲しい」等の意見が挙げられた。
- ・「チラシの配布」に関しては、「広報と合わせて全戸配布して欲しい」等の意見が挙げられた。
- ・「ホームページ、SNS」に関しては、「町の公式LINEが使いやすいため、これからも活用して欲しい」等の意見が挙げられた。
- ・上記の意見から、情報発信については、広報「みはるが好き」と町の公式LINEを引き続き活用していくことが望まれていると考えられる。

【所有者アンケート】※回答数：14件（回収率44%）

Q1. 文化財の保存状態を教えてください。

- ・文化財の保存状態で最も多かったのは「良好に保存されている」(71%)であり、それ以外は「博物館への寄託等で所在場所を変更している（保存状態を把握していない）」(29%)だった。

Q2. 文化財の防災・防犯対策としてどのようなことをしていますか。(複数回答可)

- ・防災・防犯対策として特に多かったのは「定期的な巡回により所在や異常を確認している」(43%)、次いで「消火栓や火災報知器等の防火設備を設置している」(36%)、「施錠設備等、保管場所や出入口への侵入防止措置を講じている」(29%)だった。
- ・「耐震・免震設備を設置している」、「定期的に避難訓練や防火訓練を実施している」、「定期的に防犯設備の点検や、防犯診断を実施している」、「管理台帳（目録・写真）を作成、管理している」について実施している所有者はいなかったため、今後の対策強化が必要だと考えられる。
- ・「特になし」(14%)とした所有者もいたため、状況に応じた対策の推進が必要だと考えられる。

Q3. 文化財の公開頻度について教えてください。

- ・公開頻度として最も多かったのは「見学希望があった場合のみ」(36%)であり、それ以外は「常時」、「定期的に期間限定で」、「その他」が同じ割合だった。
- ・「その他」の内容としては「土日祝日のみ」や「資料館に寄託中」があった。

Q3-2. Q3-1で「1.常時」と回答した人以外にお尋ねします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ・常時公開しない理由として最も多かったのは「対応する人員不足のため」(36%)、次いで「き損、劣化への不安のため」(21%)、「その他」(21%)だった。
- ・「その他」の内容としては「文化財のある神社に常時居られず、盗難やいたずらが不安なため」、「一部どこにあるか分からないため」、「見学者が稀なため」という意見が挙げられた。

Q4. 公開以外の活用方法として、これまでどのようなことを行ってきましたか。(複数回答可)

- ・公開以外の活用方法として最も多かったのは「博物館の展示会等に出展」(43%)、次いで「地域の行事で使用」(29%)、「調査研究の受け入れ」(29%)だった。
- ・29%の所有者はいずれの公開以外の活用も行っていないため、状況に応じた活用方法の検討が必要だと考えられる。

Q5-1. 文化財を保存・活用する上でこれまで連携・協力してきた機関や施設はありますか。

- ・これまで連携・協力してきた機関や施設で最も多かったのは歴史民俗資料館も含めた「行政」 (36%)、次いで「地域住民」 (21%)、「大学、研究機関、美術館、博物館、図書館」 (14%)、「保存会等の民間団体」 (14%) だった。

Q5-2. 具体的な連携内容を教えてください。(自由記述)

- ・「行政」との連携内容としては「震災後の歴史民俗資料館からの修理、対応方法等に関する助言」が挙げられた。
- ・「地域住民」との連携内容としては「祭礼時の清掃活動及び行事活動」が挙げられた。
- ・「大学、研究機関、美術館、博物館、図書館」との連携内容としては「大学による仏像の調査」が挙げられた。
- ・「保存会等の民間団体」との連携内容としては「民間の学習会等での文化財の公開」と「定期的な祭礼等への文化財の使用」が挙げられた。

Q6-1. 文化財を保存・活用する上で今後連携・協力したい機関や施設はありますか。(複数回答可)

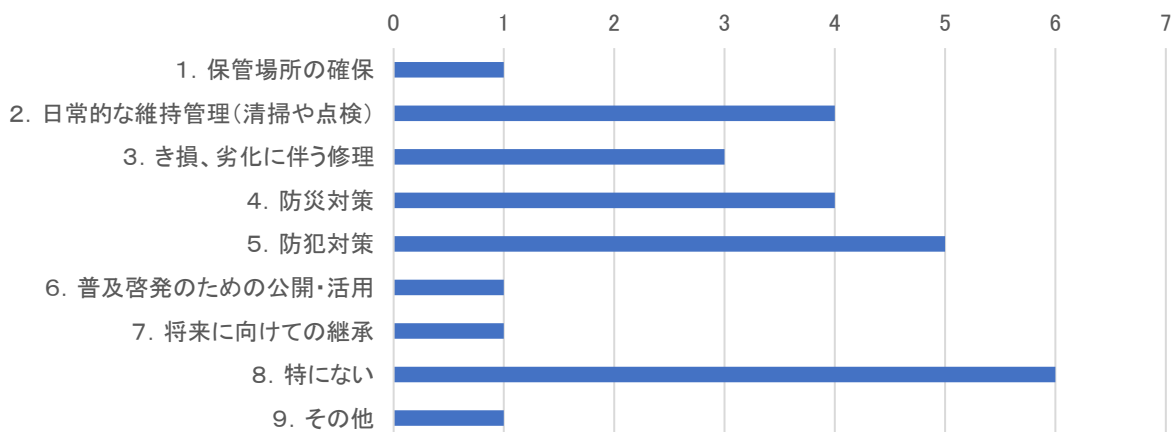
- ・今後連携・協力したい機関や施設で最も多かったのは「特にない」 (50%) であり、それ以外は「行政」 (21%)、「大学、研究機関、美術館、博物館、図書館」 (14%)、「消防署、警察署」 (14%) だった。

Q6-2. 具体的な連携内容を教えてください。(自由記述)

- ・「行政」との連携内容としては「所有文化財について掃除はしているが、どのような状態なのかは良く分かっていないため教えて欲しい」が挙げられた。
- ・「大学、研究機関、美術館、博物館、図書館」との連携内容としては「依頼があれば広く公開してみたい」、「研究機関等に文献などを調べてもらうなど活用してもらいたい」が挙げられた。
- ・「消防署、警察署」との連携内容としては「盗難への不安が大きい」等が挙げられた。
- ・上記の意見から、連携や協力の要望は少ないが、行政や研究機関等と連携した文化財の調査・研究や防犯対策の強化が望まれていると考えられる。

Q7-1. 文化財の保存・活用に関して大変なこと、困っていることは何ですか。(複数回答可)

- ・保存・活用で大変なこととして最も多かったのは「8.特にない」 (43%) で、次いで「5.防犯対策」 (36%)、「2.日常的な維持管理(清掃や点検)」 (29%)、「4.防災対策」 (29%) だった。

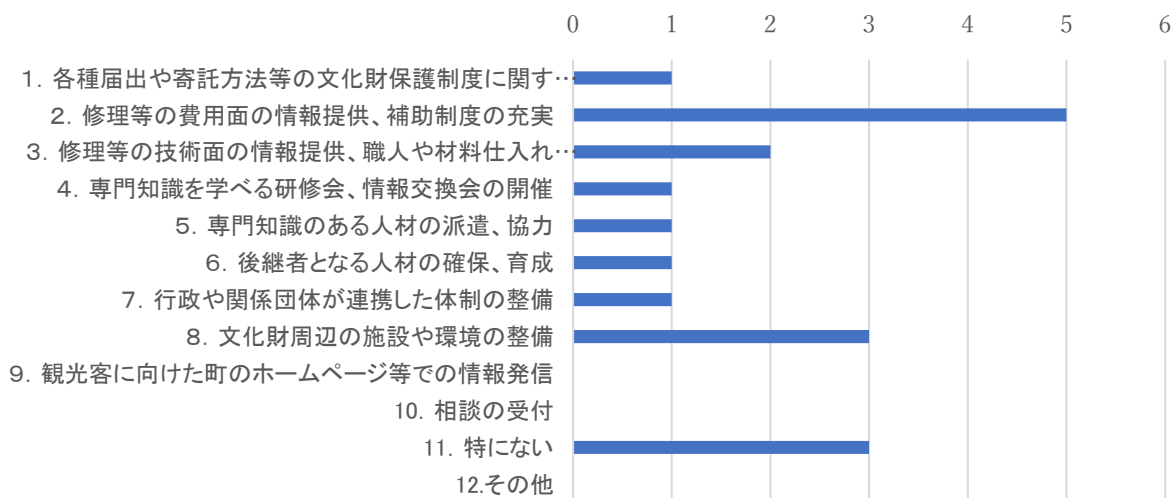


Q7-2. Q7-1で選択した内容の詳細を教えてください。

- ・「日常的な維持管理（清掃や点検）」に関しては「維持管理の具体的な方法が曖昧である」等が挙げられた。
- ・「防災対策」及び「防災対策」に関しては「施設以外特別なことをしていないため心配している」が挙げられた。
- ・上記の意見から、大変だと感じることは少ないが、維持管理の方法や防災・防犯対策に懸念があると考えられる。

Q8-1. Q7-1で選択したことについて町に何を求めますか。（複数回答可）

- ・町に求めることとして最も多かったのは「2.修理等の費用面の情報提供、補助制度の充実」（36%）、次いで「8.文化財周辺の施設や環境の整備」（21%）、「3.修理等の技術面の情報提供、職人や材料仕入れ先の紹介」（14%）だった。



Q8-2. 上記で選択した内容の詳細を教えてください。（自由記述）

- ・「費用面の情報提供、補助制度の充実」に関しては「修理等に補助して欲しい」が挙げられた。
- ・「技術面の情報提供、職人や材料仕入れ先の紹介」に関しては「修理や環境整備について他地区の様子が知りたい」が挙げられた。
- ・上記の意見から、主に文化財の保存・活用に必要な費用への補助が望まれていると考えられる。

Q9. 文化財の保存・活用に関わってきて良かったこと、嬉しかったことは何ですか。（自由記述）

- ・保存・活用に関わってきて良かったこととして、14%の所有者から回答があった。
- ・「歴史・文化について知識が増えた」と「文化財を次世代へ引き継ぐことが嬉しい。区民の協力体制ができているのが心強い」が挙げられた。

Q10. 指定等文化財の所有者として今後行っていきたいことは何ですか。（複数回答可）

- ・今後行っていきたいことで最も多かったのは「防災・防犯対策の強化」（36%）と「行政や地域、関係団体との連携」（36%）だった。

Q11. ここまで回答してきた文化財に関して、保存・活用していくべき《地域の宝物》が身の回りにあれば教えてください。また、直接関係がないものでも、身近に《地域の宝物》があれば教えてください。（自由記述）

- ・三春地区内で2件、中妻地区内で8件の宝物が挙げられた。

【保存会アンケート】※回答数：5件（回収率35%）

※回収部数は6件だが1件は会員高齢化のため中断しており無回答

Q1-1. 設立時期はいつですか。（自由記述）

・設立時期は、平成年が60%、昭和年が20%、不明が20%だった。

Q1-2. 活動最盛期の会員数は何人程度でしたか。

・最盛期の会員数は「10～30人」が40%、「30～50人」が20%、不明が40%だった。

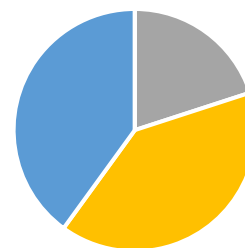
Q2. 現在の会員の人数は何人ですか。

・現在の会員数は「10～30人」が100%だった。

Q3. 会員の平均年齢はおよそ何歳ですか。

・会員の平均年齢は、「50代」が40%、「60代」が40%、「40代」が40%だった。

Q3. 会員の平均年齢



- 1. 30歳未満
- 2. 30代
- 3. 40代
- 4. 50代
- 5. 60代
- 6. 70代以上

Q4. これまでどのような活動をしてきましたか。（複数回答可）

・活動内容で最も多かったのは「祭礼行事等での上演、発表」（100%）、次いで「練習会、研修会」（60%）だった。

Q5-1. 活動する上でこれまで連携・協力してきた機関や施設はありますか。（複数回答可）

・これまで連携・協力してきた機関や施設で最も多かったのは「地域住民」（60%）、次いで「行政」（40%）、「小中学校、高校、専門学校」（40%）、「まちづくり協議会」（40%）、「保存会等の民間団体」（40%）だった。

Q5-2. 具体的な連携内容を教えてください。（自由記述）

- ・「地域住民」との連携内容としては「広報による周知」と「寄付」が挙げられた。
- ・「行政」との連携内容としては「集会所の使用」が挙げられた。
- ・「小中学校、高校、専門学校」との連携内容としては「小学校への巫女の要請」が挙げられた。
- ・「まちづくり協議会」との連携内容としては「文化祭での上演」が挙げられた。
- ・「保存会等の民間団体」との連携内容としては「他の保存会との交流」が挙げられた。

Q6-1. 活動する上で今後連携・協力したい機関や施設はありますか。（複数回答可）

・今後連携・協力したい機関や施設で最も多かったのは「地域住民」（60%）、次いで「大学、研究機関、美術館、博物館、図書館」（20%）、「まちづくり協議会」（20%）、「民間企業、事業者」（20%）、「保存会等の民間団体」（20%）だった。

Q6-2. 具体的な連携内容を教えてください。（自由記述）

- ・「地域住民」との連携内容としては「周知を徹底したい」が挙げられた。
- ・「まちづくり協議会」との連携内容としては「地域が参加できる取組みの検討」が挙げられた。
- ・上記の意見から、主に地域との連携が望まれていると考えられる。

Q7-1. 活動にあたって大変なこと、困っていることは何ですか。(複数回答可)

- ・保存・活用で大変なこととして最も多かったのは「3.会員の高齢化」(80%)、次いで「1.会員の減少」(60%)、「7.道具等の維持管理、修繕、新調ができていない」(60%)、「9.情報発信、広報が十分にできていない」(60%) だった。

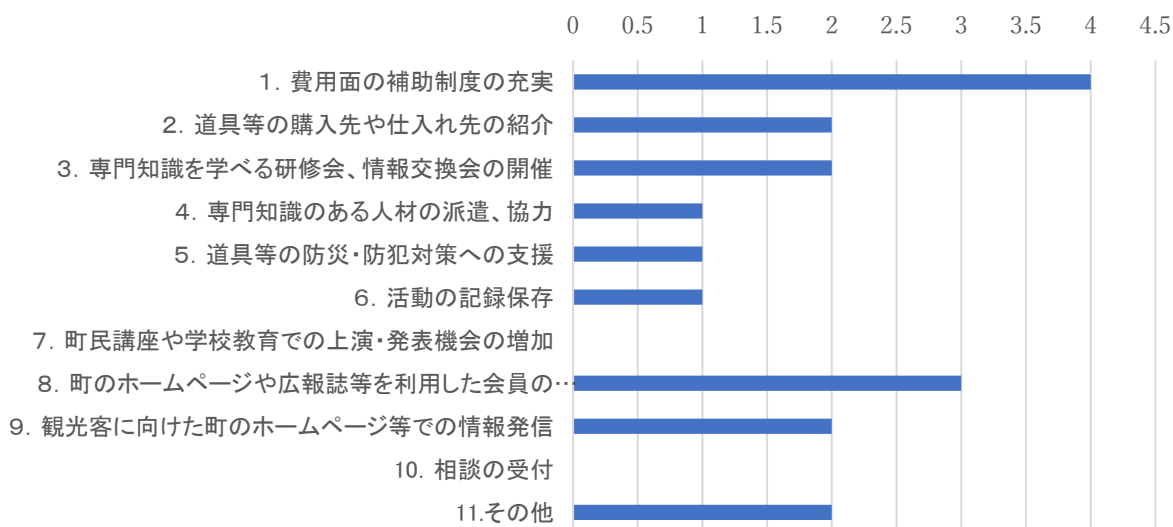


Q7-2. Q7-1で選択した内容の詳細を教えてください。

- ・「会員の高齢化」及び「会員の減少」に関しては「若い世代は関心が薄く、高齢化で会員減少」等が挙げられた。
- ・「道具等の維持管理、修繕、新調ができていない」に関しては「修繕・新調する予算不足」が挙げられた。
- ・上記の意見から、主に会員の高齢化や減少に懸念があると考えられる。

Q8-1. Q7-1で選択したことについて町に何を求めますか。(複数回答可)

- ・町に求めることとして最も多かったのは「1.費用面の補助制度の充実」(80%)、次いで「8.町のホームページや広報誌等を利用した会員の募集」(60%) だった。



Q8-2. 上記で選択した内容の詳細を教えてください。(自由記述)

- ・「費用面の補助制度の充実」に関しては「補助金の増額」が挙げられた。
- ・その他として「町の定住者不足の解消」と「継承のための協力体制の整備」が挙げられた。
- ・上記の意見から、行政と連携した、保存会維持のための費用や会員の確保が望まれていると考えられる。

Q9. 文化財の保存・活用に関わってきて良かったこと、嬉しかったことは何ですか。(自由記述)

- ・保存・活用に関わってきて良かったこととして、100%の団体から回答があった。
- ・「理解者の増加」、「認知度の上昇」、「地域に活気をもたらすことができる」、「地域住民が喜んでくれる」、「新しい取組みの成功」等の意見が挙げられた。

Q10. 今後行っていきたいことは何ですか。(複数回答可)

- ・今後行っていきたいことで最も多かったのは「会員の育成、確保」(80%)、次いで「行政や地域、関係団体との連携」(60%)だった。

Q11. ここまで回答してきた文化財に関連して、保存・活用していくべき《地域の宝物》が身の回りにあれば教えてください。また、直接関係がないものでも、身近に《地域の宝物》があれば、教えてください。(自由記述)

- ・中郷地区内で4件、中妻地区内で1件の宝物が挙げられた。

三春町文化財保存活用地域計画策定 令和7年度事業案について

1. 策定協議会の開催

(1)令和7年度:3回実施

- ・第5回協議会（令和7年6月～7月上旬）
序章～4章の確認（主に文化財や三春町の歴史文化の特徴について）、5～7章（課題・方針・措置）の検討、関連文化財群・文化財保存活用区域の検討。
- ・第6回協議会（令和7年10月）
第10章（推進体制）の確認、素案の検討。
- ・第7回協議会（令和8年2月）
最終案の検討。

2. 各種説明会等の実施

(1)文化財保存活用地域計画フォーラム

文化財保護審議会委員による基調講演と参加者を交えた意見交換を行う。
令和7年度は3回開催。

- ・第4回（7月）
テーマ：「三春の美術・工芸について—養蚕の文化—（仮）」
石田智子文化財保護審議会委員の基調講演、参加者との意見交換
- ・第5回（10月）
テーマ：「三春の遺跡、埋蔵文化財について（仮）」
廣田吉三郎文化財保護審議会委員の基調講演、参加者との意見交換
- ・第6回（令和8年2～3月）
テーマ：「三春の民俗文化財について（仮）」
田母野公彦文化財保護審議会委員の基調講演、参加者との意見交換

3. 各種調査

(1)若い世代を対象としたヒアリングまたはアンケートの実施

特に若い世代（町内高校生を想定）について、追加でヒアリングまたはアンケートを実施することとしたい。

4. 庁内検討会

本計画に盛り込む措置（具体的な事業）は、文化行政以外の他分野にもわたるため、関係部署で組織する庁内検討会を随時実施し、意見聴取を行う。

- ・庁内関係部署：総務課、財務課、企画政策課、産業課、建設課、教育課、生涯学習課
- 内容：文化財保存活用区域（重点地域）、関連文化財群の設定、特に未指定文化財の保存活用にかかる支援制度の創設の検討、文化財の活用事業の検討 ほか
- 令和7年度：3回程度実施予定

5. 素案作成

各種調査結果を踏まえて三春町の歴史文化の特徴をまとめ、必要に応じて文化財保存活用区域（重点地域）や関連文化財群を設定し、文化財の保存・活用にかかる課題・方針・措置を検討、計画の素案を完成させる。

(1)序章～2章の執筆

地域計画の概要、三春町の概要、文化財の概要について、文化庁作成の指針に基づき執筆する。

(2)町の歴史文化の特徴の検討

これまでの調査をふまえ、三春町に固有の歴史や文化にまつわる地域的な特性をまとめる。

(3)文化財リスト作成

アンケートやワークショップ等で「地域の宝物」として挙げられた未指定文化財について取りまとめ、リストを作成する。特に寺社についてはできるだけ現況を実施し、防犯対策等についても検討を行う。

(4)既存の保存活用事業のとりまとめ（～令和7年4月）

文化財にかかる既存の保存・活用事業について取りまとめを行う。

三春町庁内関連部署や関連団体に照会し、町内で実施されている事業をとりまとめる。

(5)文化財の保存活用にかかる課題・方針・措置の整理、一覧作成（～令和7年6月）

これまでの調査等で明らかになった文化財の保存・活用に関する課題を整理し、それに対する方針を検討、具体的な措置を検討・整理する。

(6)新たな事業立案・検討

(5)の検討の中で、必要に応じて新たな事業の立案・検討。

(7)文化財保存活用区域(重点地域)・関連文化財群の検討

今期（令和8年度～12年度）に措置を講じるものを優先的に設定し、次期以降増やす方向で検討。

6. 文化財保護審議会への意見聴取・諮問

計画案作成の際は随時文化財保護審議会委員へ意見を求める。また、事務局が作成した計画案について文化財保護審議会へ教育委員会より改めて諮問し、審議・答申を受ける。

7. 文化庁協議

○令和7年度：下記2回、その他随時実施予定

・調査官視察の受け入れ（7月下旬）

⇒第5回策定協議会后、文化庁へ調査官派遣を依頼し、三春町内の視察を実施。

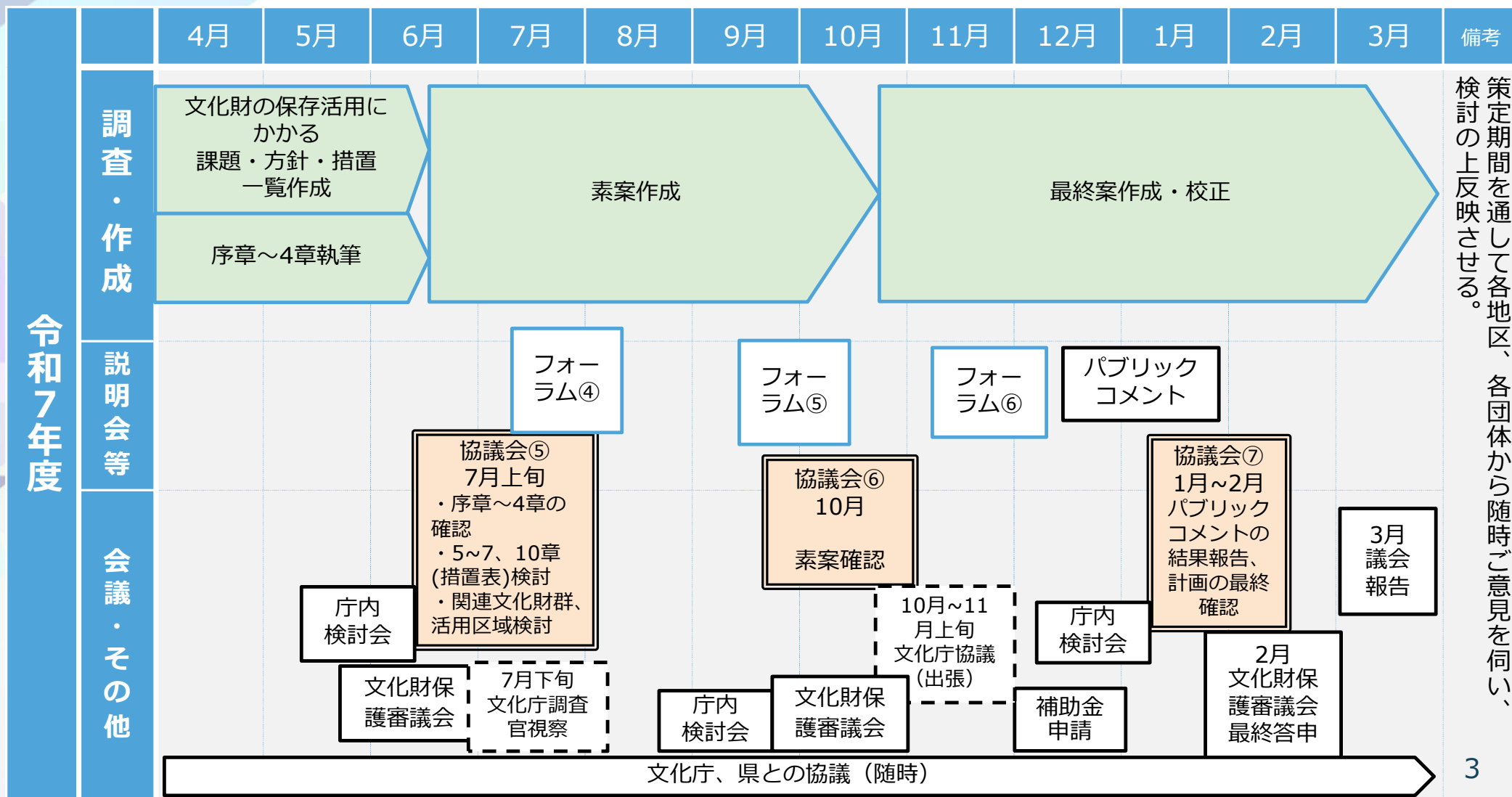
・文化庁における協議（10月～11月上旬）

⇒素案作成後、文化庁へ出向いて協議。

8. コンサルティング業者への一部業務委託

専門的な知識等を有する事業者に、支援業務を委託する。内容は、計画文案作成時の助言・補助・推敲等、図表等の作成、策定協議会や文化庁との協議の補助などを想定する。

文化財保存活用地域計画策定スケジュール案 令和7年度



文化財保存活用地域計画策定スケジュール案 令和8年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
令和7年度	調査・作成	認定準備・手続き				令和8年度 文化庁認定	計画書印刷・発行		広報誌・SNS等での広報					
	説明会等							事業展開						
	会議・その他							冬季企画展「三春の文化財（仮）」		文化財 フォーラム 地域計画と これからの 三春（仮）				

(3) 地域計画の内容について

1 文化財の定義（地域計画の対象とする文化財）

(1) 未指定文化財（文化財保護法の6類型+埋蔵文化財、文化財の保存技術）

① 有形文化財

建造物

美術工芸品（絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料）

② 無形文化財

③ 民俗文化財

有形の民俗文化財

無形の民俗文化財

④ 記念物

遺跡

名勝地

動物・植物・地質鉱物

⑤ 文化的景観

⑥ 伝統的建造物群

A 埋蔵文化財

B 文化財の保存技術

(2) 未指定文化財：上記8類型+三春町の歴史文化で欠かすことのできないもの

伝説・伝承・昔話、地名・街道、人物・ゆかりの地、寺社、周辺環境、その他

※ 名称を付けるか？ 歴史文化遺産、歴史文化資源、地域の宝（三春町を付ける）

・(1) + (2) の総称 (案) 三春町の歴史文化 _____

・(2) の名称 (案) 三春町歴史文化資源 _____

(3) 指定と未指定の間に、登録のような階層を設けるか？（補助事業の基準とするため）

(案) 三春町歴史文化遺産 _____

2 対象とする地域（現在の三春町全域）

地域区分（昭和30年の合併前の町村による7地区）

① 三春地区

② 御木沢地区

③ 沢石地区

④ 要田地区

⑤ 中郷地区

⑥ 中妻地区

⑦ 岩江地区

3 時代区分

① 原始（12万年前～3世紀）

旧石器時代（12万年前～）、縄文時代（1万6千年前～）、弥生時代（紀元前4世紀～）

② 古代（3世紀～1185年）

古墳時代（3世紀～）、飛鳥時代（593年～）、奈良時代（710年～）、平安時代（794年～）

③ 中世（1185年～1573年・1590年）

鎌倉時代（1185年～）、南北朝時代（1333年～）、室町時代（1392年～）

[戦国時代（1438年～1590年）を加えるか]

④ 近世（1573年・1590年～1868年）

安土桃山時代（1573年～）、江戸時代（1603年～）

⑤ 近代（1868年～1945年）

明治（1868年～）、大正（1912年～）、昭和・太平洋戦争終結（1926年～）

⑥ 現代（1945年～ ）

昭和・太平洋戦争終結（1945年～）、平成（1989年～）、令和（2019年～）

4 歴史・文化の特徴（文言は今後検討）

① 豊かな自然環境（滝桜、桜、山野・溪谷、風景）

② 城館と武士の文化（三春城・四十八館、田村氏・秋田氏、武芸）

③ 多彩な伝統産業と文化（馬、蚕、煙草、菅笠、三春人形）（昔話、地名・街道、素麺・油揚、美術・工芸、文芸）

④ 多様な信仰と祭り（寺社、民俗芸能、年中行事）

⑤ 近現代の発展（自由民権、馬車鉄道、繭市場、専売公社、ダム・発電所）

⑥ 城下町の賑い（武士・町人・寺社、産品の集積地）

5 関連文化財群

4-①～⑤を7群程度に分割したい

6 文化財保存活用区域

4-⑥（旧城下町、2-①主要部）のみを指定したい。

※ それ以外の地区は、計画第2期以降指定を検討する。

資料 1 地域計画の対象文化財（三春町の歴史文化）

（2）歴史文化資源

（1） 指定文化財

①有形文化財

②無形文化財

③民俗文化財

④記念物

⑤文化的景観

⑥伝統的建造物群

A 埋蔵文化財

B 文化財の保存技術

（3）歴史文化遺産

①～⑥ABのほか

昔話や地名など

未指定文化財

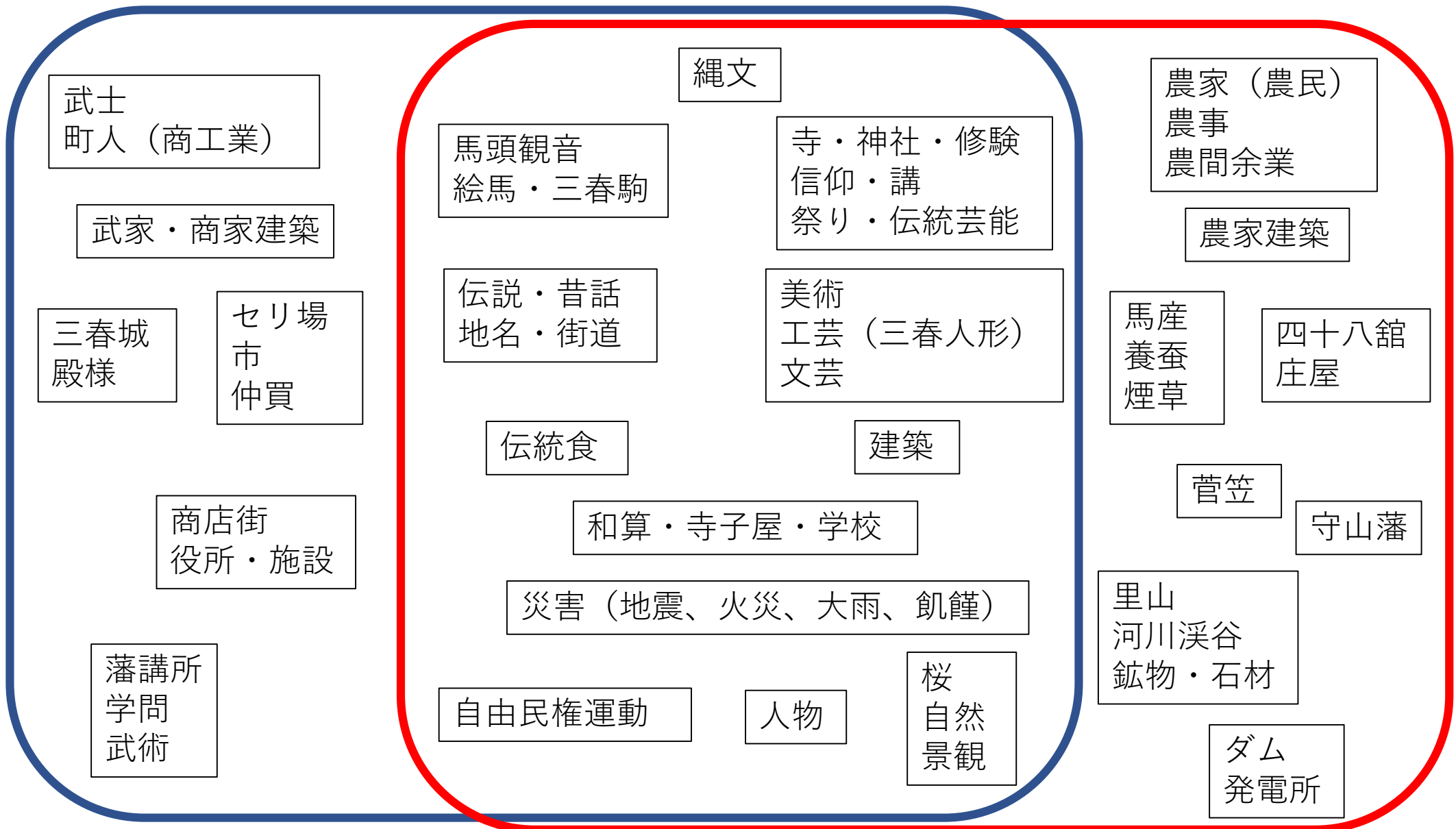
資料2 他自治体の計画対象文化財

市町村		対象文化財の名称	8 類型以外の要素
北海道	北今金町	歴史文化資源	記憶遺産、地名、食文化等
	別海町	別海のおたから	別海町歴史文化遺産（登録制）
	中標津町	（歴史文化）	戦跡、伝承、地名、ゆかりの地
岩手県	宮古市	地域の宝	地域資産（昔話伝説、生業産業、行事、交通地名、特産品）
	花巻市	文化財	8 類型に区分
	釜石市	歴史文化遺産	地域資産（伝承、方言、地名、産業、スポーツ）
宮城県	涌谷町	歴史文化資源	その他の文化財（特産品、伝統産業、音、方言、道路、伝承、地名）
秋田県	横手市	歴史文化遺産	6 類型に区分（民謡・食・伝承、未調査中世城館、消滅した旧跡・伝承地、マンガ）
	湯沢市	（歴史文化）	6 類型に区分（漆器、うどん、まつり、伝説、噴湯等）
	大仙市	大仙市の文化財（地域資源）	伝統産業、地名、方言等
山形県	山形市	歴史文化資源	方言、特産品、地形、古くからの地名、伝承、民謡
	寒河江市	（寒河江市の文化財）	8 類型に区分
福島県	会津若松市	歴史文化	歴史資源（方言、伝承、人々の伝統的な活動（産業）、交通）
	白河市	文化財	歴史上の人物伝記、口頭などによる伝承、その他、地域の歴史的・文化的所産（地名など）
	喜多方市	歴史文化資源	その他の文化財（方言、地名、伝承、自然、風景）
茨城県	日立市	生活の中で形成された「ひたちらしさ」をもった次世代に継承するもの	・日立市民文化遺産（民俗・歴史・自然・産業） ・「ひたちらしさ」を象徴する近現代の文化財（産業、インフラ、観光、美術・学術、音楽、運動）
	土浦市	歴史文化遺産	土浦遺産（市固有の文化的所産）
	石岡市	文化財	地域の文化財（伝説・昔話）
	牛久市	歴史的・文化的資源	指定物件を持たない寺社仏閣、近代化遺産、市民の木、公開活動に有益な文化施設等
	常陸大宮市	常陸大宮コレクション（地域資源）	その他の地域資源（伝統的な産物、伝統産業、生活文化、景色）
	かすみがうら市	かすみがうら市の地域資源	その他の文化財（特産品、行事・イベント、昔話・伝説）、ジオサイト
栃木県	小山市	歴史文化（文化財と周辺環境）	地名など、周辺環境
	大田原市	歴史文化（文化財と周辺環境）	・小字地名、人物、その他 ・自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動等
	那須塩原市	歴史文化資源	その他の文化資源（方言、地名、音など）
	下野市	歴史文化	・人々の活動（保存会、清掃活動、伝承など） ・周辺環境（神輿ルート、風景、景観など）
群馬県	高崎市	歴史文化資源	8 類型に区分
	館林市	館林市の歴史文化（里沼文化）	歴史文化資源（文化財を取り巻く自然環境や景観、文化財を支える技術・用具、文化財に関する伝承・伝説など）
	嬬恋村	文化財	4 分類（文化遺産、生活文化、自然環境、生産・観光）

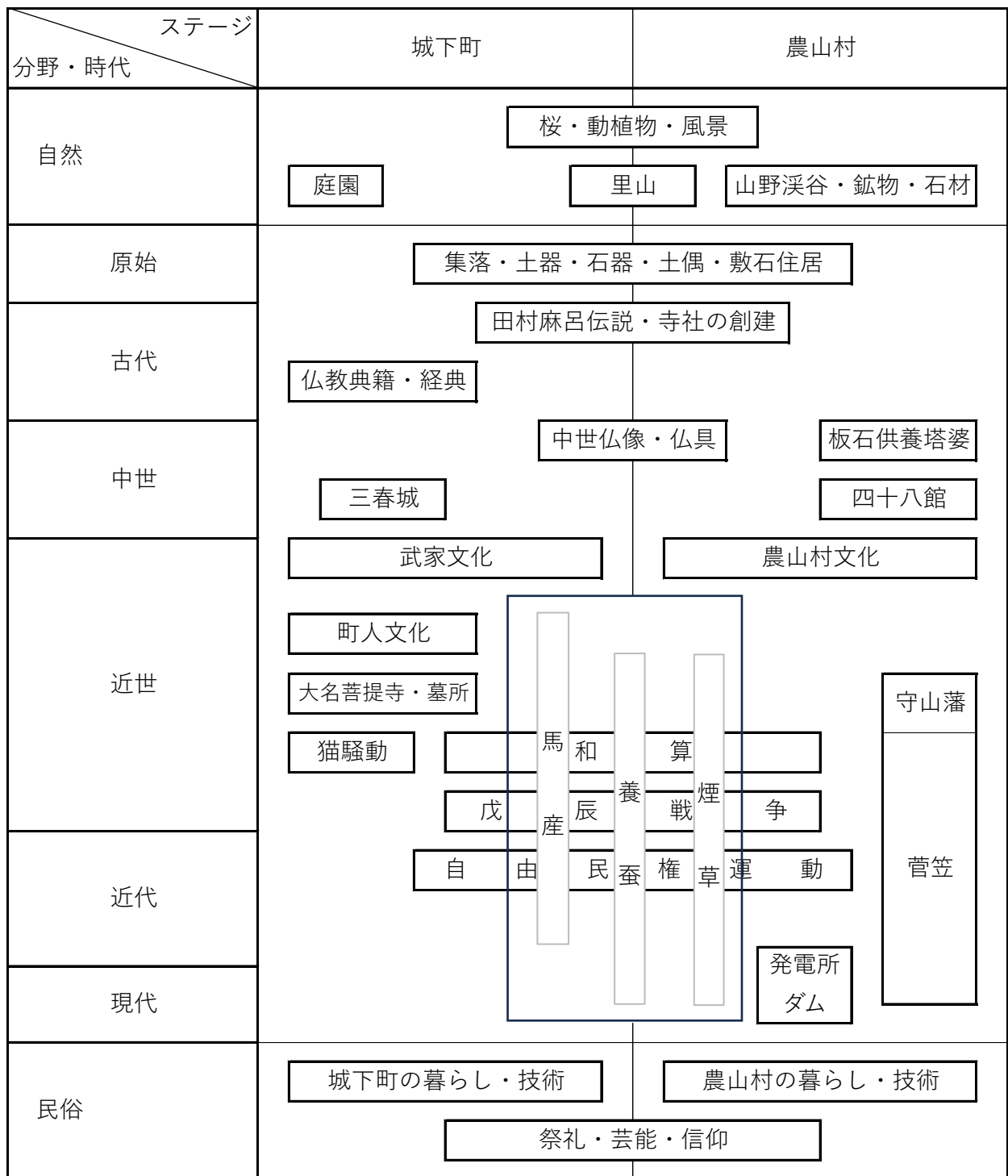
資料3 三春町の歴史文化（イメージ）

城
下
町

周
辺
農
村



資料4 三春の歴史文化事項の変遷概略図



資料5 三春町の歴史文化の特徴とアンケート項目

アンケートの項目	歴史文化の特徴					
	豊かな自然環境	城館と武士の文化	多彩な伝統産業と文化	多様な信仰と祭り	近現代の発展	城下町の賑い
	自然	中世～近世	縄文、近世～近代	縄文～現代	近現代の発展	区域
滝ザクラに代表される、サクラの町	滝桜 桜					○
三春城跡や地域の城館に代表される、戦国大名田村氏と愛姫の町		三春城 四十八館 寺社				○
三春中心市街地に代表される、武士・町人・職人文化が織りなす江戸時代の城下町		武家屋敷 藩講所 武家装束		藩主墓所 菩提寺	豪商屋敷	○
近代の三春の経済を支えた、養蚕や葉タバコ生産が盛んだった町			養蚕 農家 煙草 菅笠		繭市場 仲買商 建築	○
絵馬や三春駒に代表される、馬産文化が伝わる町			馬産農家 セリ場 三春駒	馬頭観音 絵馬		○
寺社に奉納された算額に代表される、和算の町			算額			○
三春人形に代表される、郷土玩具の町			三春人形 三春駒 羽子板			○
坂上田村麻呂に代表される、伝説・昔話が伝わる町			昔話 猫騒動 民謡 地名	創建伝説		○
三春油揚げ、三春そうめんに代表される、伝統的な食文化が伝わる町			油揚げ 素麺 蔬菜			○
縄文土器や敷石住居、土偶に代表される、縄文文化が残る町			縄文土器 石器	土偶 敷石住居		△
寺・神社に代表される、仏教・神道文化が伝わる町				寺社建築 仏像仏具 神像神具 仏教典籍 修験		○
祭り・獅子舞・神楽・講に代表される、民俗芸能・年中行事が伝わる町				獅子舞 神楽 講 年中行事		○
河野広中に代表される、自由民権運動の中心地となった町					自由民権 河野広中	○
追加	山野溪谷 風景 里山 鉱物石材 動植物	人物 武芸	人物 美術 文芸		ダム 発電所 馬車鉄道 交通網 学校施設	○

資料6 三春町の指定文化財の種類と時代(所属年代が不明確な民俗無形と天然記念物を除く)

建造物	有形文化財				民俗文化財		記念物		時代		
	美術工芸品				歴史	考古	有形	無形		史跡	天然記念物
絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍・古文書					歴史		
						西方前遺跡出土品			堂平住居跡	縄文後期初頭 縄文晩期末	縄文 平安
		木造阿彌陀如来立像 光岩寺			四種護摩口伝写 真照寺					1157年保元2年	鎌倉
			銅製松喰鶴鏡			上舞木板石供養塔婆				1280年弘安3年 1284年弘安7年	鎌倉
						向田板石供養塔婆 滝板石供養塔婆				1295年永仁3年以前 1312年応長2年 1318年文保2年	鎌倉
					大師御口決 真照寺					1337年建武4年	南北朝
						戸ノ内板石供養塔婆 町田板石供養塔婆				14世紀 14世紀 14世紀	南北朝
		延命地藏 法蔵寺								14世紀	南北朝
		木造不動明王立像 真照寺								14世紀	南北朝
			銅鏡 高木神社							1362年貞治元年 1372年応安5年	南北朝
					瑜祇経口伝 真照寺					15世紀	南北朝
		木造十一面観音像 福聚寺								15世紀	南北朝
		木造阿彌陀如来坐像 州伝寺								15世紀	南北朝
		木造正観音像 東光寺								15世紀	南北朝
									三春城跡	16世紀	南北朝
		木造地藏菩薩坐像 天沢寺								16世紀	南北朝
	復庵宗己頂相 福聚寺									16世紀	室町
	釈迦山草座図 高乾院				大祥院文書					1543年天文12年 16世紀	室町
	雪村筆奔馬図									16世紀	室町
	雪村周継達磨図附雪村庵関係文書									16世紀	室町
			華鬘一對二面 高木神社 社隆頭							1555年弘治元年	室町
					田村氏提書附大般若経					1557年弘治3年他	室町
		木造聖徳太子立像 真照寺								1567年永禄10年	室町
					福聚寺所蔵印證 高乾院所蔵印證					1577年天正5年 1577年天正5年他	安土桃山
			華鬘一面 高木神社清頭 銅羅 高木神社							1584年天正12年 1585年天正13年 1589年天正17年 1600年慶長5年	安土桃山
					平沢文書 木目沢文書 秋田実季軍陣之條々					17世紀初頭 1608年慶長13年	安土桃山
									一里塚 鷹巣	17世紀初頭 1608年慶長13年	安土桃山
									松下氏三代の墓 州伝寺 加藤氏の墓 光岩寺	1628年寛永5年～ 1640年寛永18年 17世紀前半	安土桃山
				物外紹播墨跡 福聚寺 一元紹碩墨跡 福聚寺						17世紀中葉	安土桃山
						松下時代三春城下絵図				17世紀	安土桃山
									秋田氏の墓 龍徳院 秋田氏御廟 高乾院位牌堂等	17世紀中葉～ 17世紀中葉～	安土桃山
						秋田一季氏寄贈一括資料				江戸時代～明治	安土桃山
					湊福寺史料八通 高乾院 高乾院所蔵文書					17世紀中葉から後半 江戸時代	安土桃山
						高乾院寺法 三春城起こし絵図				1649年慶安2年 17世紀中葉 1650年慶安3年 1659年万治2年	安土桃山
	十二天図 真照寺									1659年万治2年	安土桃山
	八大祖師図 真照寺									1659年万治2年	安土桃山
		木造帝釈天立像 真照寺 木造四天王立像 真照寺								1659年万治2年	安土桃山
					申上御訴訟之事 雪村庵関係文書					1660年万治3年	安土桃山
田村大元神社境内末社										17世紀後半寛文末	安土桃山
									三春大神宮奉納絵馬9面	1690年元禄2年	江戸
									宝永四年三春城下絵図	1707年宝永4年	江戸
古四王堂 真照寺 中山家住宅										1712年正徳2年 18世紀前半	江戸
			舍利塔、附文書2通 高乾院							1772年明和9年	江戸
		木造阿彌陀如来坐像 法蔵寺本尊								1727年享保11年	江戸
									三春大神宮奉納絵馬一面 狩野梅軒	1740年元文5年	江戸
					三宝院伝法灌頂私記写 真照寺					1760年宝暦10年	江戸
									馬頭観音堂奉納絵馬九面	1762～1852年	江戸
				子安薬師厨子 光明寺						18世紀後半寛政以前	江戸
				月船禅慧遺偈 高乾院						1781年天明元年	江戸
						三春城鱗瓦 三春城鬼瓦				18世紀末 18世紀末 18世紀末	江戸
藩講所表門										18世紀末(寛政年間) 1793年寛政5年	江戸
				光格天皇御宸翰 高乾院						1802年享和2年	江戸
									田村氏三代の墓 福聚寺	19世紀	江戸
									天日鷲神社奉納絵馬一面 研山	1826年文政9年	江戸
徳田研山好時筆愛染明王図										19世紀前半	江戸
						姫駕龍龍徳院				19世紀前半	江戸
									天日鷲神社奉納絵馬一面 田善 三春大神宮奉納白馬像	1850年嘉永3年	江戸
									蔵島神社奉納祭礼絵馬	1862年文久2年	江戸
		木造金剛力士像 田村大元神社								19世紀中葉	江戸
田村大元神社表門										1867年慶応3年 1868年慶応4年	江戸
	高倉旭城筆滝桜図									1875～1889年	明治
						ブリタニカ百科事典				1875～1889年	明治

資料 1 地域計画の対象文化財（三春町の歴史文化）

（2）歴史文化資源

（1） 指定文化財

- ①有形文化財
- ②無形文化財
- ③民俗文化財
- ④記念物
- ⑤文化的景観
- ⑥伝統的建造物群
- A 埋蔵文化財
- B 文化財の保存技術

（3）歴史文化遺産

未指定文化財

- ①～⑥ABのほか
昔話や地名など

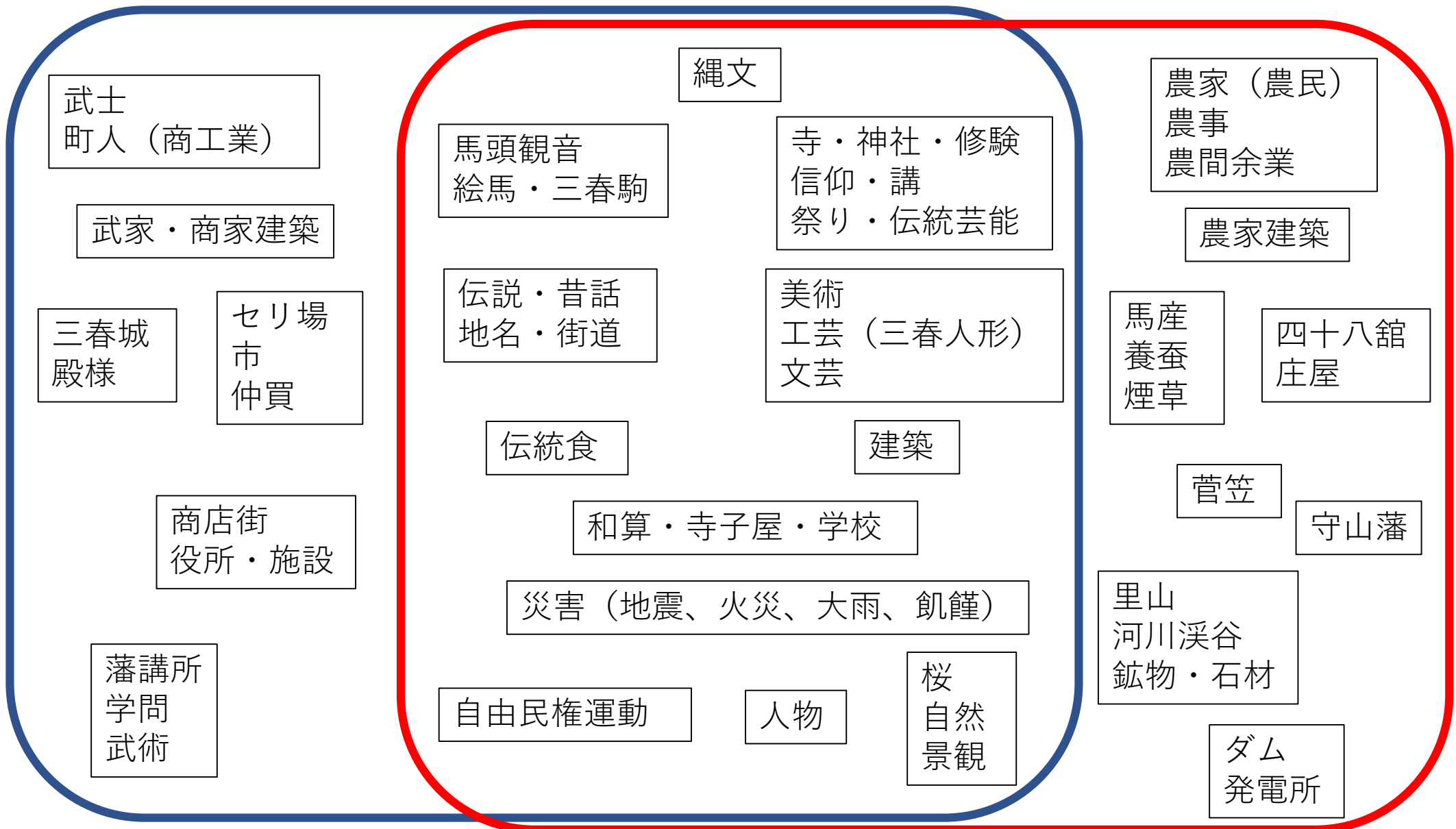
資料2 他自治体の計画対象文化財

市町村		対象文化財の名称	8類型以外の要素
北海道	北今金町	歴史文化資源	記憶遺産、地名、食文化等
	別海町	別海のおたから	別海町歴史文化遺産（登録制）
	中標津町	（歴史文化）	戦跡、伝承、地名、ゆかりの地
岩手	宮古市	地域の宝	地域資産（昔話伝説、生業産業、行事、交通地名、特産品）
	花巻市	文化財	8類型に区分
	釜石市	歴史文化遺産	地域資産（伝承、方言、地名、産業、スポーツ）
宮城	涌谷町	歴史文化資源	その他の文化財（特産品、伝統産業、音、方言、道路、伝承、地名）
秋田	横手市	歴史文化遺産	6類型に区分（民謡・食・伝承、未調査中世城館、消滅した旧跡・伝承地、マンガ）
	湯沢市	（歴史文化）	6類型に区分（漆器、うどん、まつり、伝説、噴湯等）
	大仙市	大仙市の文化財（地域資源）	伝統産業、地名、方言等
山形	山形市	歴史文化資源	方言、特産品、地形、古くからの地名、伝承、民謡
	寒河江市	（寒河江市の文化財）	8類型に区分
福島	会津若松市	歴史文化	歴史資源（方言、伝承、人々の伝統的な活動（産業）、交通）
	白河市	文化財	歴史上の人物伝記、口頭などによる伝承、その他、地域の歴史的・文化的所産（地名など）
	喜多方市	歴史文化資源	その他の文化財（方言、地名、伝承、自然、風景）
茨城	日立市	生活の中で形成された「ひたちらしさ」をもった次世代に継承するもの	・日立市民文化遺産（民俗・歴史・自然・産業） ・「ひたちらしさ」を象徴する近現代の文化財（産業、インフラ、観光、美術・学術、音楽、運動）
	土浦市	歴史文化遺産	土浦遺産（市固有の文化的所産）
	石岡市	文化財	地域の文化財（伝説・昔話）
	牛久市	歴史的・文化的資源	指定物件を持たない寺社仏閣、近代化遺産、市民の木、公開活動に有益な文化施設等
	常陸大宮市	常陸大宮コレクション（地域資源）	その他の地域資源（伝統的な産物、伝統産業、生活文化、景色）
	かすみがうら市	かすみがうら市の地域資源	その他の文化財（特産品、行事・イベント、昔話・伝説）、ジオサイト
栃木	小山市	歴史文化（文化財と周辺環境）	地名など、周辺環境
	大田原市	歴史文化（文化財と周辺環境）	・小字地名、人物、その他 ・自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動等
	那須塩原市	歴史文化資源	その他の文化資源（方言、地名、音など）
	下野市	歴史文化	・人々の活動（保存会、清掃活動、伝承など） ・周辺環境（神輿ルート、風景、景観など）
群馬	高崎市	歴史文化資源	8類型に区分
	館林市	館林市の歴史文化（里沼文化）	歴史文化資源（文化財を取り巻く自然環境や景観、文化財を支える技術・用具、文化財に関する伝承・伝説など）
	嬭恋村	文化財	4分類（文化遺産、生活文化、自然環境、生産・観光）

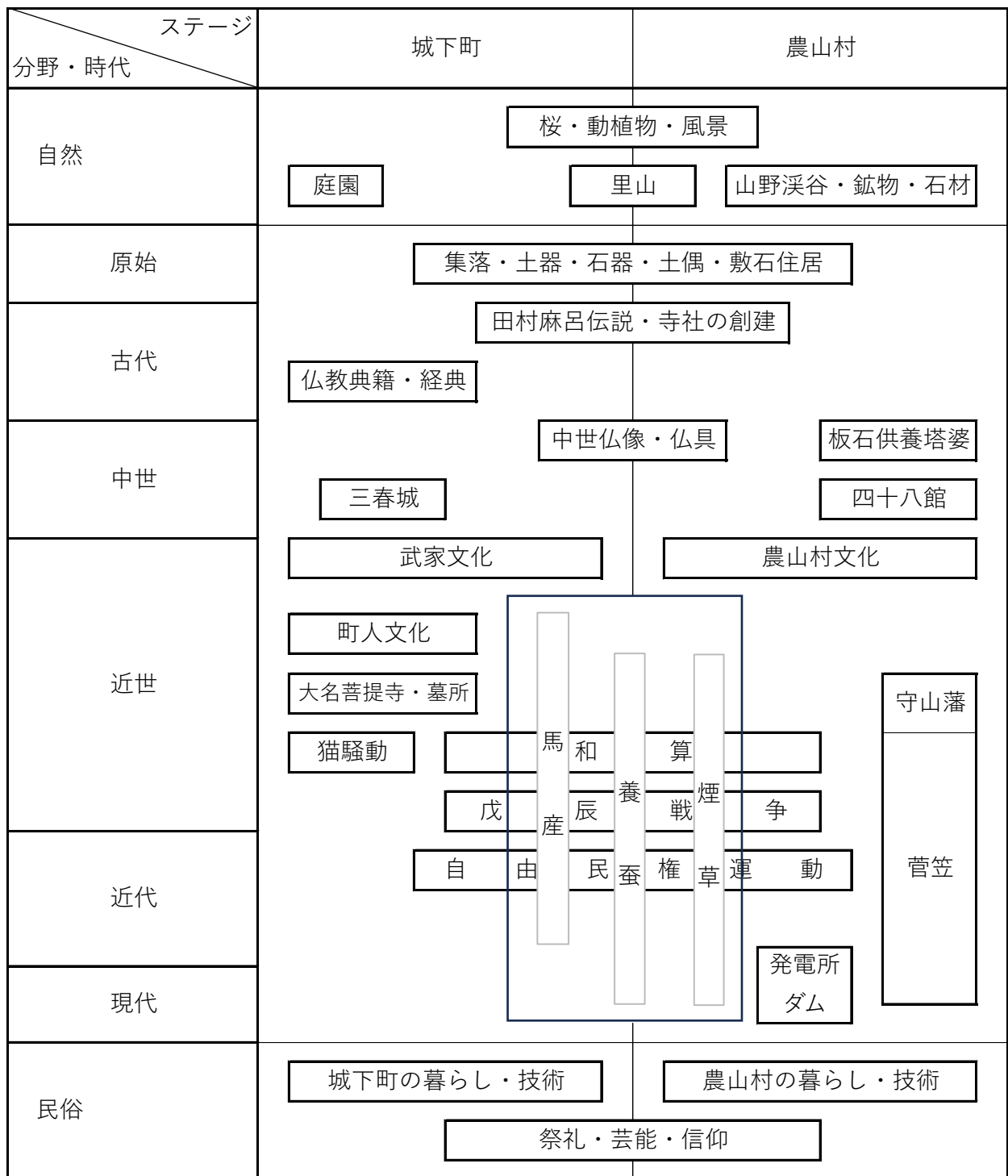
資料3 三春町の歴史文化（イメージ）

城
下
町

周
辺
農
村



資料4 三春の歴史文化事項の変遷概略図



資料5 三春町の歴史文化の特徴とアンケート項目

アンケートの項目	歴史文化の特徴					
	豊かな自然環境	城館と武士の文化	多彩な伝統産業と文化	多様な信仰と祭り	近現代の発展	城下町の賑い
	自然	中世～近世	縄文、近世～近代	縄文～現代	近現代の発展	区域
滝ザクラに代表される、サクラの町	滝桜 桜					○
三春城跡や地域の城館に代表される、戦国大名田村氏と愛姫の町		三春城 四十八館 寺社				○
三春中心市街地に代表される、武士・町人・職人文化が織りなす江戸時代の城下町		武家屋敷 藩講所 武家装束		藩主墓所 菩提寺	豪商屋敷	○
近代の三春の経済を支えた、養蚕や葉タバコ生産が盛んだった町			養蚕 農家 煙草 菅笠		繭市場 仲買商 建築	○
絵馬や三春駒に代表される、馬産文化が伝わる町			馬産農家 セリ場 三春駒	馬頭観音 絵馬		○
寺社に奉納された算額に代表される、和算の町			算額			○
三春人形に代表される、郷土玩具の町			三春人形 三春駒 羽子板			○
坂上田村麻呂に代表される、伝説・昔話が伝わる町			昔話 猫騒動 民謡 地名	創建伝説		○
三春油揚げ、三春そうめんに代表される、伝統的な食文化が伝わる町			油揚げ 素麺 蔬菜			○
縄文土器や敷石住居、土偶に代表される、縄文文化が残る町			縄文土器 石器	土偶 敷石住居		△
寺・神社に代表される、仏教・神道文化が伝わる町				寺社建築 仏像仏具 神像神具 仏教典籍 修験		○
祭り・獅子舞・神楽・講に代表される、民俗芸能・年中行事が伝わる町				獅子舞 神楽 講 年中行事		○
河野広中に代表される、自由民権運動の中心地となった町					自由民権 河野広中	○
追加	山野溪谷 風景 里山 鉱物石材 動植物	人物 武芸	人物 美術 文芸		ダム 発電所 馬車鉄道 交通網 学校施設	○

資料6 三春町の指定文化財の種類と時代(所属年代が不明確な民俗無形と天然記念物を除く)

建造物	有形文化財				民俗文化財		記念物		時代			
	美術工芸品				歴史	考古	有形	無形		史跡	天然記念物	
絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍・古文書					歴史			考古
						西方前遺跡出土品			堂平住居跡		縄文後期初頭 縄文晩期末	縄文 平安
		木造阿彌陀如来立像 光岩寺			四種護摩口伝写 真照寺						1157年保元2年	鎌倉
			銅製松喰鶴鏡			上舞木板石供養塔婆					1280年弘安3年 1284年弘安7年	鎌倉
						向田板石供養塔婆 滝板石供養塔婆					1295年永仁3年以前 1312年応長2年 1318年文保2年	鎌倉
					大師御口決 真照寺						1337年建武4年	南北朝
						戸ノ内板石供養塔婆 町田板石供養塔婆					14世紀 14世紀 14世紀	南北朝
		延命地藏 法蔵寺									14世紀	南北朝
		木造不動明王立像 真照寺									14世紀	南北朝
			銅鏡 高木神社								1362年貞治元年 1372年応安5年	南北朝
					瑜祇経口伝 真照寺						15世紀	南北朝
		木造十一面観音像 福聚寺									15世紀	南北朝
		木造阿彌陀如来坐像 州伝寺									15世紀	南北朝
		木造正観音像 東光寺									15世紀	南北朝
									三春城跡		16世紀	南北朝
		木造地藏菩薩坐像 天沢寺									16世紀	南北朝
	復庵宗己頂相 福聚寺										16世紀	室町
	釈迦山草座図 高乾院				大祥院文書						1543年天文12年 16世紀	室町
	雪村筆奔馬図										16世紀	室町
	雪村周継達磨図附雪村庵関係文書										16世紀	室町
			華鬘一對二面 高木神社 社隆頭								1555年弘治元年	室町
					田村氏提書附大般若経						1557年弘治3年他	室町
		木造聖徳太子立像 真照寺									1567年永禄10年	室町
					福聚寺所蔵印證 高乾院所蔵印證						1577年天正5年 1577年天正5年他	室町
			華鬘一面 高木神社清頭 銅羅 高木神社								16世紀後半天正 1584年天正12年 1585年天正13年 1589年天正17年 1600年慶長5年	安土桃山
					平沢文書 木目沢文書 秋田実季軍陣之條々						17世紀初頭 1608年慶長13年	安土桃山
									一里塚 鷹巣		17世紀初頭 1608年慶長13年	安土桃山
									松下氏三代の墓 州伝寺 加藤氏の墓 光岩寺		1628年寛永5年～ 1640年寛永18年 17世紀前半	安土桃山
				物外紹播墨跡 福聚寺 一元紹碩墨跡 福聚寺							17世紀中葉	安土桃山
						松下時代三春城下絵図					17世紀	安土桃山
									秋田氏の墓 龍徳院 秋田氏御廟 高乾院位牌堂等		17世紀中葉～ 17世紀中葉～	安土桃山
						秋田一季氏寄贈一括資料					江戸時代～明治	安土桃山
					湊福寺史料八通 高乾院 高乾院所蔵文書						17世紀中葉から後半 江戸時代	安土桃山
						高乾院寺法 三春城起こし絵図					1649年慶安2年 17世紀中葉 1650年慶安3年 1659年万治2年	安土桃山
	十二天図 真照寺										1659年万治2年	安土桃山
	八大祖師図 真照寺										1659年万治2年	安土桃山
		木造帝釈天立像 真照寺 木造四天王立像 真照寺									1659年万治2年	安土桃山
					申上御訴訟之事 雪村庵関係文書						1660年万治3年	安土桃山
田村大元神社境内末社											17世紀後半寛文末	安土桃山
									三春大神宮奉納絵馬9面		1690年元禄2年	江戸
									宝永四年三春城下絵図		1707年宝永4年	江戸
古四王堂 真照寺 中山家住宅											1712年正徳2年 18世紀前半	江戸
			舍利塔、附文書2通 高乾院								1772年明和9年	江戸
		木造阿彌陀如来坐像 法蔵寺本尊									1727年享保11年	江戸
									三春大神宮奉納絵馬一面 狩野梅軒		1740年元文5年	江戸
					三宝院伝法灌頂私記写 真照寺						1760年宝暦10年	江戸
									馬頭観音堂奉納絵馬九面		1762～1852年	江戸
				子安薬師厨子 光明寺							18世紀後半寛政以前	江戸
				月船禅慧遺偈 高乾院							1781年天明元年	江戸
						三春城鱧瓦 三春城鬼瓦					18世紀末 18世紀末 18世紀末	江戸
藩講所表門					安居圖衆名簿 高乾院						18世紀末(寛政年間) 1793年寛政5年	江戸
				光格天皇御宸翰 高乾院							1802年享和2年	江戸
									田村氏三代の墓 福聚寺		19世紀	江戸
									天日鷲神社奉納絵馬一面 研山		1826年文政9年	江戸
		徳田研山好時筆愛染明王図									19世紀前半	江戸
					姫駕龍龍徳院						19世紀前半	江戸
									天日鷲神社奉納絵馬一面 田善 三春大神宮奉納白馬像		1850年嘉永3年	江戸
									蔵島神社奉納祭礼絵馬		1862年文久2年	江戸
		木造金剛力士像 田村大元神社									19世紀中葉	江戸
田村大元神社表門											1867年慶応3年 1868年慶応4年	江戸
	高倉旭城筆滝桜図										1875～1889年	明治
						ブリタニカ百科事典					1875～1889年	明治